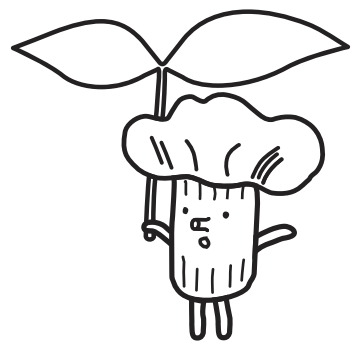
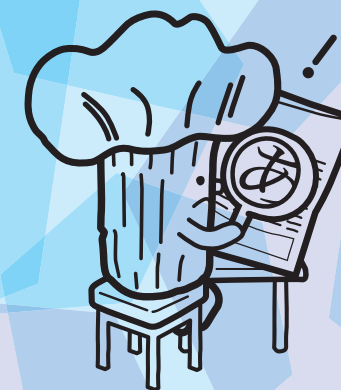


荒川化学工業株式会社

お問い合わせ先：品質環境保安室
〒541-0046 大阪市中央区平野町1丁目3番7号
TEL 06-6209-8524 FAX 06-6227-5817
e-mail : info@arakawachem.co.jp
URL : http://www.arakawachem.co.jp



SPECIALITY
CHEMICAL PARTNER



2014 環境・社会報告書

つなぐを化学する SPECIALITY CHEMICAL PARTNER

荒川化学工業株式会社





■トップメッセージ

新たな時代を見すえて、
世界というステージでの
貢献に向けた取り組みが
本格化しています。

荒川化学工業株式会社
取締役社長

谷 興 勝 三

国内市場が低迷する一方、 事業のグローバル展開が加速

取締役社長に就任して約1年が経ちました。そして、第3次中期経営計画が2年目を迎えています。計画が順調に進んでいる中で、当社に対する期待と社会的使命の大きさをあらためて実感しているところです。

昨年を振り返ると、国内需要はアベノミクス効果の影響もあり、回復傾向にありました。しかし、電子媒体の普及や出版物離れを背景に、当社主原料のロジンの大きな用途である紙やインキの需要は減少傾向にあります。一方で、世界を見渡すと、東南アジアなどの新興国ではIT関連の材料が好調に推移しています。世界市場の動向に日本のメーカー各社は機敏に対応しており、当社としても海外展開に積極的なお客様への的確な対応に努めています。

このような現状を受けて、事業のグローバル展開が加速しています。海外の売り上げ比率は、当初の目標を上回る勢いで伸びています。国内で培った高い技術を活かしつつ、現地のニーズにきめ細かく対応している点が奏効していると思われます。

アジア企業から、真のグローバル企業への 飛躍を目指して

海外での事業規模がますます拡大していく中で、当社の社会的な使命をグローバルな視点で考えていかねばなりません。例えば、近年は外国人従業員が急増しています。従業員全体に占める外国人の比率が2013年度末に39%であったのに対して、2020年には過半数に達するものと思われます。これまではアジア企業としての発展を遂げてきましたが、今後は真のグローバル企業への飛躍が課題となっていきます。

特に検討すべきは、138年にわたる歴史の中で培った経営理念を、世界の中でどのように共有していくかということです。従来、経営理念はともすると「在籍していれば分かって当然」という暗黙知に基づいていました。しかし、価値観が多様な世界各国の人々に理念を伝えていくためには、だれもが明解に分かる表現にすることが欠かせません。

そこで、これまで当たり前とされてきた価値観を一つひとつ明文化していくことが、重要な使命であると考えています。また、私たちの考える理念が絶対無二であるとは限りません。

当社が培ってきた考え方に加えて、世界の人々の価値観を尊重することも大切なことです。

こうした観点から、当社では昨年、チーム「KIZUNA」を立ち上げ、グローバル展開を見すえた経営理念を価値観として共有化するための文書化に取り組んでいます。具体的には、外国人従業員を交えて、経営理念を明文化し、さらに明文化された内容の英語や中国語への翻訳に取り組んでいるところです。そこでは単に言葉を外国語に置き換えるのではなく、従業員同士の真摯な議論を通じて、理念を共有していくことを目指しています。

そして、グローバル展開が進む中で、私が経営において大切にしたいこと。それはコーポレート・ガバナンスにおける「求心力」と「遠心力」のバランスです。前者は経営理念をはじめとする普遍的な価値観を広く伝え、共有していく取り組みです。そして後者は海外各国の考え方を踏まえた新たな価値観の創造といえます。「KIZUNA」プロジェクトは、その一歩となることでしょう。

社会に対する新たな貢献を目指す 「つなぐ」プロジェクト

「KIZUNA」がグローバル展開を見すえた取り組みである一方、国内事業の活性化もまた重要な課題です。当社が保有する技術を活かすことで、既存のお客様に加えて、新たなお客様への貢献が欠かせません。そこで取り組んでいるのが「つなぐ」というプロジェクトです。

これは社内の意識改革と技術革新を促進し、社会への新たな貢献を目指していくものです。「つなぐ」をテーマにした直近の展示会「新機能性材料展2014」では、「水」「熱」「光」に関する機能と材料を提案しました。おかげさまで、3日間で約1,000名のお客様が来場され、当社に対する期待の大きさを実感することができました。

「KIZUNA」も「つなぐ」も社長直轄のプロジェクトです。今後、着実に推進していくことで、これからの時代における荒川化学の方向性を明確に打ち出していきます。



■ ARAKAWA WAY 「5つのKIZUNA」

【社会の軸】 まもる	・安全を最優先します ・ルールを遵守します ・環境に配慮します
【人の軸】 関わりあう	・コミュニケーションとチームワークを大切にします ・お互いの良さを認め合います ・思いやりをもって教え、共に成長します
【自身の軸】 主役になる	・仕事に対して「夢」を持ちます ・自らの役割を理解し、良さを伸ばします ・責任感をもってやり遂げます
【技術の軸】 技術の伝承と革新	・「知る」「活かす」そして「伝える」 ・「こだわり」をもって創造します ・変化を掴み、前例にとらわれない発想をします
【顧客の軸】 お客様と共に歩む	・一人ひとりの仕事は「お客様につながっている」ことを意識します ・お客様と共に考え、期待に応えます ・お客様に喜ばれる品質を、継続して提供します

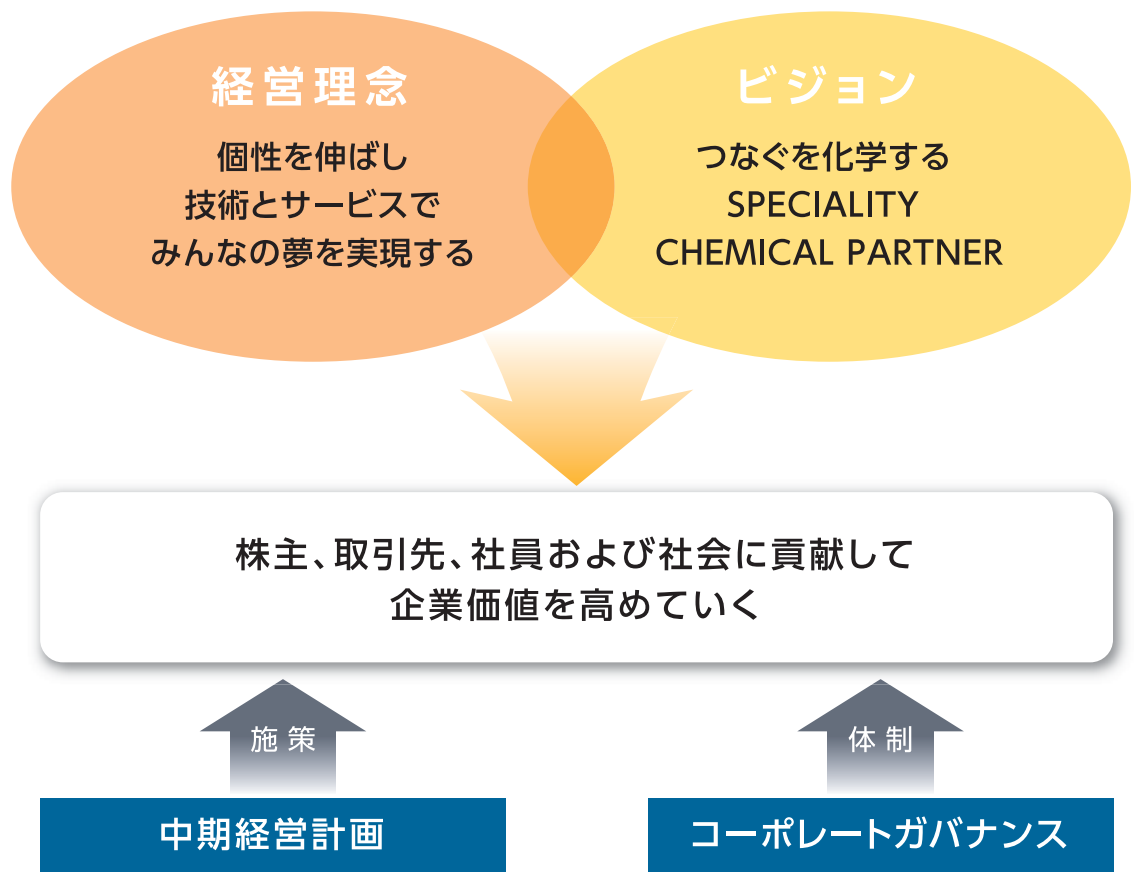
従業員から「働き続けてよかった」と 言われ続けるために

なお、当社は今年、経営理念実現への道標として「ARAKAWA WAY」を制定しました。この中には、「まもる」「関わりあう」「主役になる」「技術の伝承と革新」「お客様と共に歩む」の5つの価値観を盛り込んでいます。(概要は表を参照)

例えば、「まもる」について言えば、安全操業を堅守するという観点から価値観のトップに掲げました。また、環境を守るという点も大切な課題です。当社製品の原料であるロジンは、松の木から採取するもので、いわば再生可能な原料です。しかし、将来を見すえて、松の木の保護に力を入れる必要を感じています。そこで、取り組みの一環として、昨年12月、水島工場のある岡山県内にて赤松の植林作業に当社従業員も参加しました。また、今年の3月の植林作業には、私も参加しました。今後、国内を手始めにして海外でも同様の取り組みができれば、と考えています。

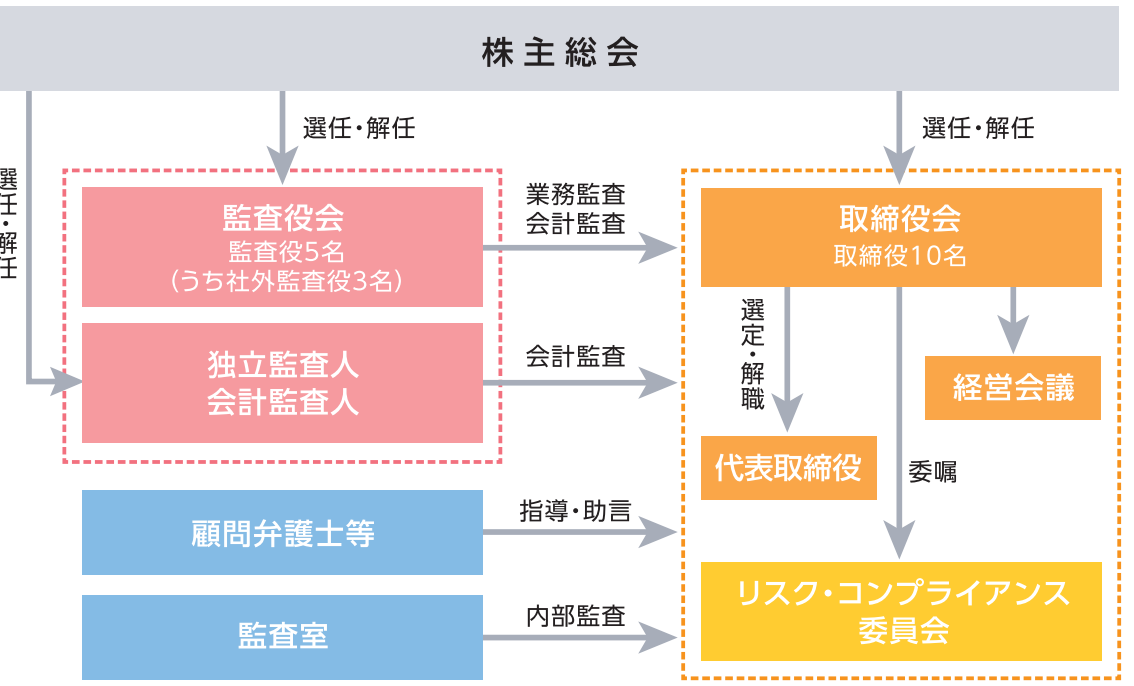
「関わりあう」の価値観については、創業以来、当社は「家族主義」という考え方のもとで、従業員を大切にする経営に努めてきた点を挙げることができます。実際、定年で退職された元従業員の方々に話を聞くと、「荒川化学に最後まで勤めることができてよかった」という意見をしばしば耳にします。経営者として、うれしい限りであるとともに、これから先、国内外を問わず、従業員の方々から定年退職を迎えた時に「働き続けてよかった」という言葉が聞ける企業を目指す必要があると、決意を新たにしています。

以上のように、グローバル展開をはじめとして、新たな荒川化学に向けた革新が急ピッチで進行しています。つきましては、これからも当社へのご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



コーポレートガバナンス

当社は経営理念「個性を伸ばし 技術とサービスで みんなの夢を実現する」と、ビジョン「つなぐを化学する SPECIALITY CHEMICAL PARTNER」に基づき、株主、取引先、社員および社会に貢献して企業価値を高めていくことを目指しています。
また、すべてのステークホルダーから信頼される企業となるため、コーポレートガバナンスの充実と内部統制の強化に努めています。



荒川化学グループの概要

荒川化学グループ

会 社 数 15社
連 結 売 上 高 750億25百万円
連 結 経 常 利 益 26億97百万円
従 業 員 数 1,330名

荒川化学工業株式会社

本 社 所 在 地 大阪市中央区平野町
1丁目3番7号

創 業 1876年(明治9年)11月
設 立 1931年(昭和6年)1月

資 本 金 31億2,830万円

売 上 高 525億9百万円

経 常 利 益 17億45百万円

従 業 員 数 732名 (2014年3月31日現在)

主 な 製 品 群

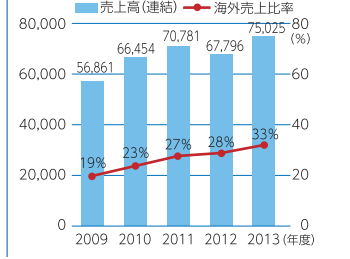
- ・製紙用薬品
- ・印刷インキ用樹脂
- ・塗料用樹脂
- ・粘着・接着剤用樹脂
- ・合成ゴム重合用乳化剤
- ・光硬化型樹脂
- ・電子材料用配合製品
- ・精密部品洗浄剤および洗浄装置

グループ関連会社(14社)

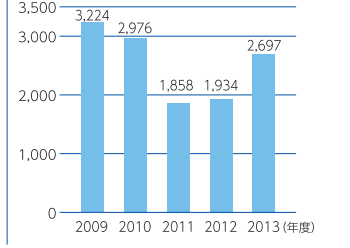
国 内 ペルノックス株式会社
高圧化学工業株式会社
カクタマサービス株式会社

海 外 荒川ヨーロッパ社
広西梧州荒川化学工業有限公司
南通荒川化学工業有限公司
荒川ケミカル(タイランド)社
台湾荒川化学工業股份有限公司
荒川化学合成(上海)有限公司
荒川ケミカル(米国)社
日華荒川化学股份有限公司
香港荒川化学有限公司
ボミラン・テクノロジー社
廈門荒川化学工業有限公司

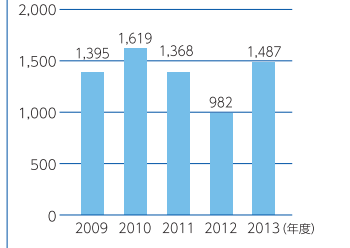
売上高(連結) (単位:百万円)



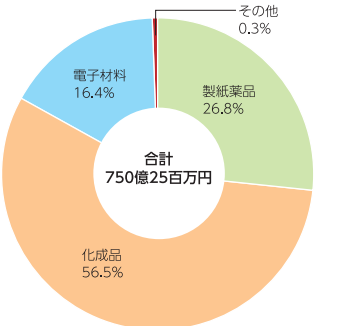
経常利益(連結) (単位:百万円)



当期純利益(連結) (単位:百万円)



売上高構成比(セグメント別、連結)



CONTENTS

トップメッセージ..... 1-2
荒川化学が目指すもの／コーポレートガバナンス ... 3
目次／荒川化学グループの概要／編集方針／マツタロウについて 4
特集「つなぐ技術」..... 5-8

社会性報告

信頼される企業を目指して..... 9-10
お客様とのかかわり
品質保証、お客様満足 11
情報公開 12
化学物質の適切な管理..... 13
従業員とのかかわり
グローバル化のための人材の育成 14
地域・社会とのかかわり 15-16
株主・投資家とのかかわり 16

環境・安全報告

環境と安全についての方針 17
環境マネジメントシステムの推進 18
目標と実績、環境負荷の状況 19
環境会計 20
環境保全活動
CO₂排出量の削減 21
物流のCO₂排出量削減、大気汚染防止、水資源の保全 ... 22
産業廃棄物の削減、PCB廃棄物の管理、
土壌汚染対策、環境に関わる事故 23
化学物質の適正管理 (PRTR法対象物質) 24
安全活動
労働安全衛生活動 25
保安・防災活動..... 26

サイトレポート

サイト別活動報告
国内・海外拠点/ 荒川ヨーロッパ 27
広西梧州荒川化学工業/南通荒川化学工業 28
荒川ケミカル(タイランド)/台湾荒川化学工業 ... 29
ペルノックス/高圧化学工業 30
大阪工場/富士工場 31
水島工場/小名浜工場 32
釧路工場/徳島工場/鶴崎工場 33
第三者意見 34

編集方針

当社は経営理念のもと、ビジョンを掲げて社内外のステークホルダーに貢献し、企業価値を高めていくことを目指しています。「環境・社会報告書」は、その活動内容をすべてのステークホルダーの皆様にお伝えすることを目的に作成しています。
本報告書は、2013年度までの実績を報告するとともに社会面のさらなる充実を図りました。また、社外のステークホルダーの声 (VOICE) を拡充しました。
さらに、創業より天然樹脂であるロジン (松やに) の化学を起点に供給してきた製品を特集しました。

対象組織

荒川化学工業株式会社と国内連結製造子会社であるペルノックス株式会社と高圧化学工業株式会社を対象にしました。
ただしサイトレポートは3社に加え海外連結の製造子会社も対象にしました。
その他の報告は、荒川化学グループ全体の情報を掲載しました。

記載項目

報告項目の選択にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン (2012年版)」を参考にしました。

対象期間

2013年4月1日～2014年3月31日の会計年度を採用しています。(発行日2014年6月)

次回発行予定

2015年6月

荒川化学のキャラクター
マツタロウ

よろしく
お願ひします!

松の妖精マツタロウは、たくさんの方に荒川化学のことを知っていただけるよう、2006年の創業130周年を記念して誕生した荒川化学のマスコットキャラクターです。

「つなぐを化学する」とは…

荒川化学の「つなぐ技術」が新たなつながりを次々ともたらします。

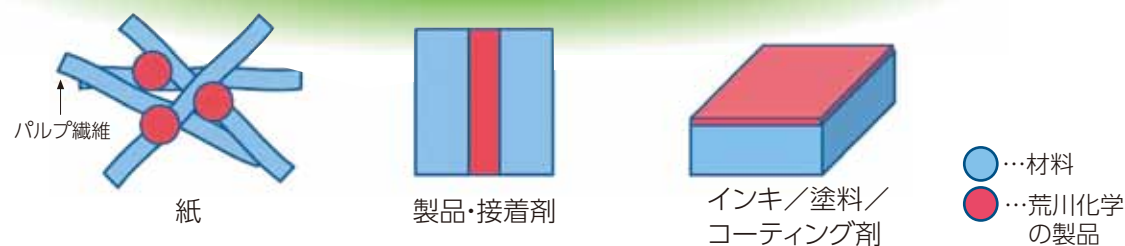
材料と… 新たな機能を与える

お客様と… ニーズにお応えし、特別なパートナーへ

組織と… 横断的な組織体制で事業開発を推進

歴史を… 培ってきた技術を活かし、新用途、新分野を開拓

つなぐ技術



荒川化学の製品が材料に働きかけ、機能を付加します。

荒川化学の製品

荒川化学の製品は、暮らしの中の“より便利により快適に”を目指し、あらゆる分野の機能向上を実現しています。

…ロジン使用製品

丈夫にする

- 紙(ティッシュ)に… 紙の繊維をつなぎ、濡れても破れにくくします。
- 車などの塗料に… 塗られた塗料を長持ちさせます。

くっきり・鮮やか

- 紙に… インキのにじみを防ぎ、印刷や書かれたものをきれいに見せます。
- インキに… 紙にしっかり定着し、色鮮やかな印刷に仕上げます。

保護する

- 液晶画面に… 傷つかないように保護します。
- 鉄板に… 錆びないように保護します。

伸びる

- チューインガムに… 噛み心地をアップ。また風船ガムを伸びやすくします。
- 合成ゴムに… タイヤなどの合成ゴム製品の特性を高めます。

くっつく・剥がす

- 電子部品接合のはんだに… 環境に配慮したはんだになります。
- 粘着・接着剤に… 粘着性を付与します。
- ラベルやシールに… 剥離紙の離型剤に使われます。

きれいにする

- 電子部品の洗浄剤に… 環境に配慮した洗浄剤になります。

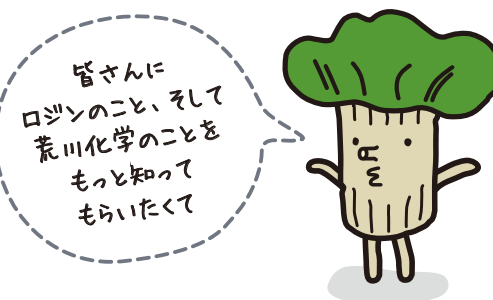


さまざまな機能で暮らしを快適に



「荒川化学とロジン」のお話をしましょう。

ロジンとは、松の木から採れる松やにを精製した、環境に配慮した樹脂。荒川化学はこの素材の可能性を引き出し、140年近くにわたり用途分野を開発、多くの製品を送り出してきました。当社の実績を直接目にさせていただくことはできないかもしれませんが、これからもロジンを通じて皆様とつながっていきたくと考えています。



明治時代、ロジンとともに歩み始めました

■ 松やには世界中で使われてきた万能素材。

エジプト文明隆盛の時代にはミイラの防腐剤やたいまつ燃料に、西洋の大航海時代には船のシーリングやコーティングに使われていた松やに。また古代中国では痛み止めや不老長寿などの薬効の記述も残っており、はるか昔から人々の暮らしに欠かせないものとなっていたようです。

産業革命が起こり、大量の紙が必要になった19世紀初頭には、紙のにじみ止めに松やにからつくられたロジンが使用されるようになりました。現在の水蒸気蒸留を使ったロジンの製造方法は、この頃に開発された技術です。



中世の蒸留装置

■ 荒川化学の原点は、ロジンとテレピン油。

欧米でのロジン関連産業が盛んになってきた明治の初め、1876年(明治9)に日本でいち早くロジンとテレピン油(松やにを原料とした精油)を販売したのが、当社の創業者・荒川政七でした。屋号を玉屋と称し、国(カクタマ)の商標を掲げ生薬商を営んできた政七が、ロジンの将来性を見いだしたのです。これが現在の荒川化学の原点です。当時は主に製紙や塗料などに使われていました。



日本で化学工業をはじめ、各種産業が発展し始めた1914年(大正3)には、大阪・鳴野にロジン関連製品の製造工場を設立。パインケミカルズ(松やに関連化学製品)のリーディングカンパニーとしての地位を時代とともに確立していきました。

松やにの採取からロジンができるまで

松やには、松林の立木から直接採取するため、松の木の生育や異物の混入などに配慮しながら作業がおこなわれます。

ロジンの製法(ガムロジンの場合)



ロジン製品の安定供給のために

松やにからつくられる天然由来であるがゆえに、天候や産地の影響を受けやすいロジン。高品質のロジン製品を安定してお届けしていくために、長年にわたり培われた技術やノウハウが活かされています。



原料調達の体制

ロジンの原料の松やにを、世界中で最も多く産出しているのが中国です。荒川化学では、中国のロジンメーカーからロジンを輸入、また現地でのロジンの生産体制も整えています。

- 松やに採取業者やロジンメーカーを直接訪問し、品質検査や技術指導をおこなうとともに現地の正確な情報を収集。常に生産状況を把握できるよう細心の注意を払っています。
- 2004年、中国梧州市に広西荒川化学(現在、広西梧州荒川化学)を設立。松やにの精製からロジン製品までの一貫生産の拠点を現地に確保しています。



広西梧州荒川化学

厳しい品質管理

すべてのロジンが当社の要求性能を完璧に満たしているわけではないため、検査結果による使い分けが必要になります。この早い段階でのチェック体制が品質の確保につながっています。

- ロジンの成分比率は産地や製造時期で異なります。入荷前にロジンの品質評価をおこない、どの製品に適しているかを判断します。
- 評価段階で異常があれば、ロジン製造工場にフィードバック。改善を依頼することで、相互にレベルアップが図れます。



分析風景

環境貢献につながるロジン製品

天然由来のロジン製品を使用することで、機能性と同時に環境性を高めることができます。荒川化学のロジン製品は、幅広い分野でさまざまな環境貢献を実現しています。



古紙リサイクル対応

● 製紙用薬品「サイズバイン」

紙のにじみ止めの機能を担い、紙の製造に欠かせないロジンを原料としたサイズ剤。当社は製紙用薬品の分野で業界ナンバーワンのシェアを誇っています。



温暖化ガス削減

● 印刷インキ用樹脂「タマノル」

顔料や植物油などと変性ロジンを配合し、速乾性や光沢などさまざまな機能をもたらす印刷インキがつくられます。環境に配慮した「植物油インキ」などに使われています。



環境負荷低減

● 合成ゴム重合用乳化剤「ロンデス」

タイヤ用合成ゴムを製造する工程で原料を均等に分散させる乳化剤に変性ロジンのアルカリ塩を使用。合成ゴムに適度な引っ張り強度、耐熱・耐摩耗性などをもたらします。



VOC対策

● 粘着・接着剤用樹脂「スーパーエステル」

粘着テープや接着剤のネバネバ(粘着付与)をつくり出す上で、ロジンを原料とした樹脂が役立っています。粘着・接着剤の水溶性など市場ニーズに積極的に対応しています。



食品安全性対応

● 食品添加物「エステルガム」

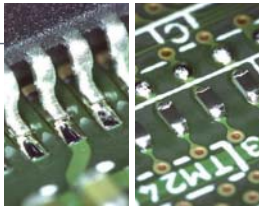
チューインガムの噛み心地の度合いを調整しているのが、ロジンを原料にした食品用「エステルガム」です。安全な食品添加物として用いられています。



鉛フリー対応

● 電子材料用クリームはんだ「パインソルダー」

電子基板などの製造に欠かせないクリームはんだにロジンが配合されています。有害な鉛を含まない、環境貢献度の高い「鉛フリーはんだ」の高性能化に貢献しています。



最新技術・製品情報

超淡色ロジン「パインクリスタル」

技術的に困難とされていた無色透明ロジンを開発

本来、琥珀色の樹脂であるロジンの無色透明化を実現、世界で初めて上市しました。不純物が少なく、熱に対して安定性が高い上、各種ポリマーと調合後も分離しないという特性から、医療用粘着剤やプラスチック用添加剤など付加価値の高い分野で幅広く採用されています。また耐候性にさらに優れた(紫外線に強い)製品も開発しています。

放熱塗料「ペルクール」(ペルノックス製品)

太陽光発電装置における発電量アップに貢献

高い熱伝導性と熱放射性を併せ持つ塗料「ペルクール」は、耐候性、絶縁性、金属との密着性に優れており、金属フィンや放熱板に塗布することで高い放熱性を発揮します。

この特性を活かす用途の一つが太陽電池です。2013年の国際会議では、「集光型太陽光発電モジュール外面にペルクールを塗布し、起電力と変換効率が向上」という宮崎大学の研究成果を発表しました。

洗浄剤「パインアルファ」

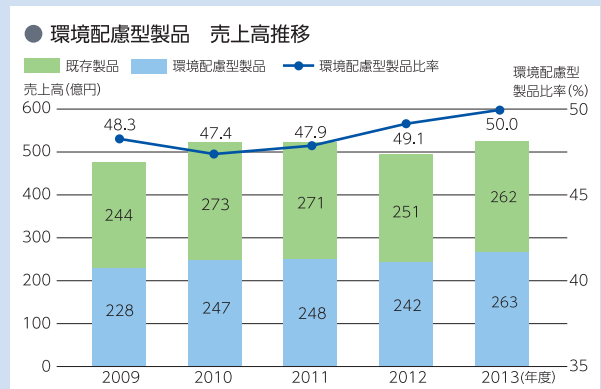
フロン系洗浄剤の代替品開発への取り組み

環境破壊の要因であるフロン系洗浄剤の代替品として、洗浄剤「パインアルファ」をはじめ、洗浄装置、洗浄システム「PACシステム」を開発。

さらに洗浄剤のリンス工程で生じる大量の廃水に着目し、蒸留前後の組成が一定で速乾性があり、リンス不要という全く新しいタイプの洗浄剤を開発。事実上、廃水ゼロの洗浄システムも上市しています。

環境配慮型製品の売上比率が伸びています。

環境配慮型製品の売上比率は、着実に伸びています。環境配慮型の新製品を市場に出すまでには、基礎研究から実用化研究まで、幅広い技術力が必要です。荒川化学は、環境配慮型製品を生み出すために、設計開発に力を入れています。



ペルクールを塗布した宮崎大学の集光型太陽電池(CPV)での検証



出典：Kensuke Nishioka et.al, 7. International Conference on Concentrating Photovoltaic Systems



洗浄装置

社外各所で研究成果を発表

第56回紙パルプ技術協会年次大会

クロード化(廃水削減)が進み、用水中の溶存物質が多い抄紙環境下においても薬品効果を発揮する紙力増強剤の開発を発表。

第17回JICC洗浄技術フォーラム

「洗浄における省エネルギー・省コストのノウハウ概説」を演題とした電子基板の洗浄剤(脱フロン)について講演。

粘着研究会第134回例会

テーマ「タックファイヤーに関する最近の開発動向」にて、超淡色ロジン「パインクリスタル」を中心に光学用粘着剤の活用について紹介。

集光型太陽光発電国際会議CPV-9

放熱塗料「ペルクール」につき、宮崎大学での研究成果を説明。また、ペルノックスがスポンサーとして展示ブースを設置。

お客様とのかかわり

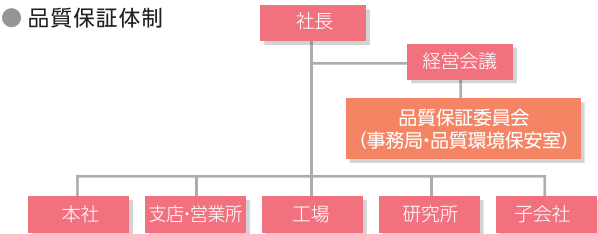
お客様に満足していただける化学品メーカーとして荒川化学グループは、品質保証を確実にし、化学物質を適切に管理し、誠実な情報公開に努めています。

品質保証、お客様満足

お客様に満足していただけることが、企業としての使命です。

品質保証体制

荒川化学グループでは、品質担当役員を委員長とし、各部門の代表者による品質保証委員会を設置しています。



品質方針

- ・製品の開発から廃棄に至るすべての段階で、社会の要求に適合し、顧客の信頼と満足が得られる、製品とサービスを提供する
2013年4月1日 取締役社長 谷奥 勝三
- ・顧客満足を高め、業績向上に向けて、品質マネジメントシステムの有効性を継続的に改善する
2010年6月18日 品質担当役員 常務取締役 眞鍋 好輝

ISO9001

荒川化学グループは、品質マネジメントシステムISO9001を取得し、品質保証体制を構築しており、世界標準で品質を保証する体制を整えています（下表参照）。

認証取得状況

社名	登録番号	認証取得日	審査実施日
荒川化学	JQA-0788	1995年2月17日	2013年8月6-8日 2014年2月19-21日
ペルノックス	JQA-1441	1996年11月1日	2013年10月21-23日
高圧化学	JQA-QM5263	2000年9月14日	2013年7月25日

（海外子会社）

台湾荒川化学	TW97/11053QA	1997年10月21日	2013年5月17日 2013年12月6日
広西梧州荒川化学	684680	2011年9月19日	2013年5月30日
荒川ケミカル(タイ)	AJA02/5261	2002年6月13日	2014年2月24日
南通荒川化学	00107Q12555R05/3200	2007年7月27日	2013年6月27日
荒川ヨーロッパ	RQA666299	2012年12月12日	2013年10月7日

品質監査

品質環境保安室が中心となり、国内外の製造子会社、製造委託先、原材料メーカーの品質監査を実施しています。その結果をもとに、改善への勧告・助言をおこない、製品の品質改善に努めています。

顧客満足

発生した問題に対しては、速やかな解決に努めています。お客様の信頼感と当社の信用の維持とともに、製品品質の改善につなげることを目的としています。さらに、種々の指標を用いて、顧客満足度を測定・分析し、結果を日常の営業活動に活かしています。

顧客認定制度

グリーン調達基準を定めているお客様に対して、荒川化学グループは、それに対応するよう努めており、複数の事業所が認定されています。

VOICE

JSR (株) 様から サプライヤー特別賞を受賞



化成品事業部
営業第二部
山崎 哲也

JSR (株) 様よりファインケミカル事業への長年にわたる貢献が認められ、今回の受賞に至りました。特に私たちが心掛けているのは、お客様のご要望への真摯な対応、そして安定した品質を確保し、お届けすることが一義と考え、その体制づくりを進めています。次の目標はベストサプライヤー賞とし、さらに努めていきたいと思ひます。

ただ一つ残念だったのは、台風の影響で表彰式に遅れてしまったこと。急いで祝杯をあげた後、出席の皆様のご厚意により、撮り直しの記念写真には無事納まることができました。

パナソニック (株) AIS 社様より QCDS 評価で表彰



ペルノックス
機能材 営業グループ
武藤 秀治

電子部品用外装塗料として当社製品を長期にわたりご使用いただいています。2012年にはお客様の工場が災害に見舞われ、その際の緊急納品に対応。また今年からは、電子部品業界の動きに合わせ開発した環境対応品をご提供できるようになりました。

このような
オールペル

ノックスによるきめ細かな対応の積み重ねを評価いただいたと感じています。今後もお客様に求められる製品を提供し、社会貢献の一翼が担えるよう、気を引き締めていきたいと思ひます。

※ QCDS: Quality, Cost, Delivery, Service
の略



情報公開

環境に配慮した事業展開、製品開発の情報提供に取り組んでいます。

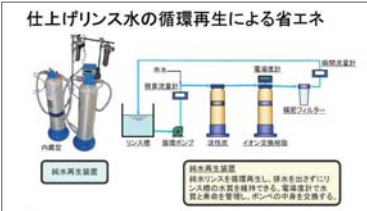
学会・講演会での技術紹介

● 集光型太陽光発電国際会議「CPV-9 (9th International Conference on Concentrator Photovoltaic Systems)」(2013年4月15日から3日間、宮崎)において、ペルノックスが開発した放熱塗料の宮崎大学における研究成果「集光型太陽光発電モジュールのアルミニウム筐体に放熱塗料を塗布した場合の効果」を紹介しました。



CPV-9インダストリーセッションと展示

● 「第17回 JICC 洗浄技術フォーラム 2013 - 環境と人に優しい洗浄テクノロジー その進化と証し -」(2013年9月26日、東京ビッグサイト)において、「洗浄における省エネルギー・省コストのノウハウ概説」について講演をおこないました。



JICC 洗浄技術フォーラム (発表資料)

● 「粘着研究会第134回例会」(2013年9月13日、大阪市立工業研究所)で、「タックファイヤーに関する最近の開発動向」と題し、超淡色ロジンなどの光学用粘着剤における活用を発表しました。



粘着研究会

● 大阪工研協会主催の「新春講演会」(2014年2月4日、KKR ホテル大阪)で、社長の谷奥が、「つなぐを化学する スペシャリティ ケミカル パートナー」と題して、資源循環型のバイオマス原料であるロジンと環境に優しい高品質の材料・技術を提供し、社会へ貢献することを目的とした事業展開などについて講演しました。



新春講演会

● 「JIEP 超高速・高周波エレクトロニクス実装研究会 平成25年度第4回公開研究会」(2014年2月21日、岡山大学津島キャンパス)において、「高耐熱・低誘電率・低誘電正接を特徴とする溶剤可溶型ポリイミド樹脂のご紹介」と題した発表をおこないました。



JIEP 公開研究会

展示会での製品紹介

● 「第42回国際電子回路産業展 (JPCA Show 2013)」(2013年6月5日から3日間、東京ビッグサイト)および「2013台湾電子回路基板国際展示会 (TPCA Show 2013)」(2013年10月23日から3日間、台北市南港展覽館)で、スマートフォンやフレキシブル太陽電池用の回路基板用として期待される両面銅付ポリイミドフィルムなどを紹介しました。



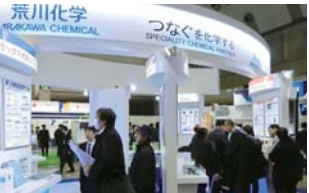
JPCA Show 2013



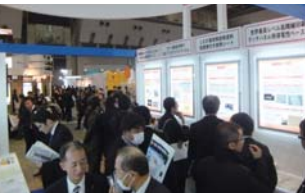
TPCA Show 2013

● 「第43回インターネプコン ジャパン2014」(2014年1月15日から3日間、東京ビッグサイト)では、電子材料分野の製品として、車載用途に最適で鉛フリーな高信頼性ソルダペースト、鉛フリーやハロゲンフリーソルダペーストに対しても高い洗浄力を誇るフラックス洗浄剤、無溶剤UV硬化型防湿基板コート剤、UV硬化型高硬度クリアハードコート剤などの環境配慮型製品について紹介しました。

● 「新機能性材料展2014」(2014年1月29日から3日間、東京ビッグサイト)では、「水」「熱」「光」の三つのコンセプト別に製品を紹介しました。



インターネプコン ジャパン2014



新機能性材料展2014

● 「2013中国国際『水処理化学品、水溶性高分子、造紙化学品、工業表面活性剤』技術及応用展覧会」(2013年11月12日から3日間、中国・上海)で、製紙業の環境負荷低減につながるよう、中国市場向けに最適化したサイズ剤、紙力増強剤の紹介をおこないました。



中国国際技術及応用展覧会

お客様とのかかわり

化学物質の適切な管理

環境負荷を最小化した事業活動を目指して、グリーン規定に従い化学物質を適正に管理していきます。

荒川化学では、化学物質の適切な管理をおこなうための化学物質管理基準を定め、人や環境への高い毒性を有する化学物質を「使用禁止化学物質」として指定し、原材料および製品に含有することを禁止しています。人や環境への汚染の恐れがある化学物質については「管理化学物質」として指定し、原材料および製品における含有量を明確にして管理しています。

■ 設計開発からの化学物質管理

製品の設計開発段階では、顧客から要求される品質の実現ばかりでなく安全性、環境に配慮することを確実にするためのチェックポイント集を用いて設計をおこなうようにしています。製品を研究試作する段階では含有する化学物質を明確にし、危険有害性や法規制からどのような対応が必要となるかの評価を、当社独自のツールである製品評価リストによりおこなっています。また、パイロットプラントでの試作製造、工場での量産に至る各段階でも評価し、化学物質管理を確実におこなえるようにしています。

● 設計開発からの化学物質管理の仕組み



■ 海外の関連法規制

グローバルな事業展開を進める中で、化学物質管理についても海外の関連法規制に対応したものにしています。EUのRoHS指令指定物質、REACH高懸念物質（SVHC）の管理や、急速に法整備が進むアジア各国への対応も進めています。また、適正な輸出をおこなっていくための安全保障貿易管理についても、体制整備を進めています。



安全保障貿易管理の勉強会

■ 化学製品の情報提供

世界的基準であるGHS（化学品の分類および表示に関する世界調和システム）に基づき、製品としての危険有害性の伝達をラベルや安全データシート（SDS）によりおこなっています。アジア各国でもGHS対応の法整備が進められており、中国語版、韓国語版でのラベル、SDSの提供が可能な体制を整えました。

■ 教育、情報共有

製品の設計開発段階からの化学物質管理をおこなっていくための研究員への教育として、法規制についての集合教育や製品評価リストでの製品安全性評価やSDSの作成をおこなえるようにするための実践セミナーを実施しています。

国内外の化学物質管理に関する動向などについては、化学物質管理連絡会を定期的に開催し、荒川化学グループとして情報共有をおこなっています。



製品評価リスト、SDS作成の実践セミナー

従業員のとのかかわり

「個性を伸ばす」という経営理念を実践し、社会に貢献できる「人財」育成と「みんなの夢を実現する」職場づくりに力を入れています。

グローバル化のための人財の育成

グローバル化に向けて、それに対応できるグローバルな人財の採用と海外勤務で活躍できるようにするためのグローバル教育を推進しています。

■ 外国籍キャリア人財の採用

グローバルに対応するため、外国籍の新卒者採用とキャリア採用を積極的に進めています。日本の荒川化学の中での外国籍社員は17名になりました。

■ グローバル教育の推進

グローバルに活躍できる人財育成を目指して、多様な教育プログラムを進めています。

階層別研修: 新入社員、2～3年目社員、新任係長、新任管理職を対象としたセミナー
職種別研修: 営業、研究、生産別セミナーおよびISO9001内部監査員養成セミナー、語学セミナー
通信教育: 語学・各種資格取得講座など本人希望で受講、受講料の5～8割を会社負担
留学制度: 大学（大学院含む）や研究機関への留学

また、若手社員を対象とした海外研修は2012年度から派遣者数を大幅に増やし、2013年度は中国4名、欧州2名、米国1名の計7名が派遣されました。留学生との交流や現地事業所でのさまざまな実務体験を通して鍛えられ、国際感覚を身につけ、たくましく成長して復帰した研修生は今後グローバルスタッフとしての活躍が期待されます。

■ 中国内グループ会社の人事制度整備

人事制度コンセプトである「働きがいのある会社、喜んで働ける会社」を荒川化学グループとしてグローバルに展開していくため、荒川化学グループが求める人財像、評価内容、処遇を明確にするとともに、人財のレベル向上を目指して、中国内グループ各社の人事制度の整備を進めています。

■ 人財の活用（女性・高齢者・障がい者）

優れた人財が力を十分に発揮できるよう、職場づくりに取り組んでいます。介護休業制度や、女性従業員の働く機会を確保するための育児休業制度などを設けて、従業員の職場復帰をバックアップしています。また、女性社員の採用にも積極的に取り組んでいます。

障がい者の採用については、中途採用を中心に取り組んでいます。今後も職場環境を整備して、就労できる職場・職域の拡大を進め、雇用を推進していきます。

また、定年退職者の経験や能力を活かすため、健康で働く意欲のある人には65歳まで働くことができる継続雇用制度を設けています。2013年度定年を迎えた対象者7名中6名がこの継続雇用を選択しました。現在当社で39名、国内・海外子会社を含めると計48名がこの制度を利用して各職場で活躍しています。

VOICE

積極性が生まれた海外研修



化成品事業部
研究開発部
吉本 哲也

広州中山大学での語学留学では、中国語や中国文化を学ぶだけでなく、多くの国の留学生と交流を深めることができました。またその後の広西梧州荒川化学での現地研修では、生産現場から品質管理、営業までさまざまな業務を学ぶことができました。

日本では味わえないこれらの多彩な出会いや経験を通じて、自分の中に芽生えた積極性は貴重な財産となっています。今後はより多くのことに積極的にチャレンジしていきたいと思います。

日本とは違う環境に身を置くことの大切さを実感



製紙薬品事業部
研究開発部
大野 健一

北京での語学研修を経て、南通荒川化学にて1年間現場研修を受けました。言葉が通じない中で生活することや現地スタッフとの仕事に対する考え方の違いを乗り越えるためには、上手な中国語よりも自ら行動し主張することが必要なのだと学びました。さらに、生産、営業、物流、会計、貿易などの部署に直接関わることで、研究分野以外の知識を得ることができ、思考の幅の広がりを感じます。

海外研修制度に感謝するとともに、この経験を今後の業務へ活かしていきたいと思います。

荒川化学単独人員構成（定時嘱託、契約社員を含む）

	人 数		
	2012年3月末	2013年3月末	2014年3月末
従業員数	725	728	746
男 性	663	667	679
女 性	62	61	67
外国籍者	8	11	17

雇用実績

	人 数		
	2012年3月末	2013年3月末	2014年3月末
高齢者継続雇用	37	36	39
障がい者雇用	9	9	13

荒川化学グループ連結人員構成（定時嘱託、契約社員を含む）

	人 数		
	2012年3月末	2013年3月末	2014年3月末
連結人員	1,319	1,334	1,353
男 性	1,126	1,147	1,184
女 性	193	187	169
外国籍者	524	506	522

■ インターンシップ制度

荒川化学は、大学、高校の学生に向けてインターンシップ制度を実施しており、現場で現実の仕事を体験してもらい、将来のキャリアプラン形成に役立ててもらえるように取り組んでいます。2013年度は高校生、高等専門学校生、大学生の計3名がこの制度を利用しました。

地域・社会とのかかわり

荒川化学グループは学術、文化、地域貢献などさまざまな活動を通じ、地域とともに歩む、信頼される企業を目指します。

■ 梧州学院、南京林業大学に奨学金を授与

荒川化学グループでは、ロジン（松やに）の産地としてゆかりの深い中国での国際交流や産業の発展に貢献できる人材の育成を支援するため、中国の梧州学院および南京林業大学「南京林業大学紙パルプ基金会」を通じて学生への奨学金による援助活動をおこなっています。



梧州学院の奨学金授与式

VOICE

尊敬する荒川化学のリーダーの皆様へ



奨学金受給学生
南京林業大学
翁 悠 子 さん

大学に入学できたことは、私の努力が報われたということですが、その一方で家族にかかる負担が重くなりました。私が勉学に励み、良い仕事に就いて、今の貧しい生活から抜けられるよう大きな期待もかけられています。

「優秀な人材育成を目的とした学生への賛助基金がある」と大学で聞いた時は、本当にうれしく思いました。その時から、奨学金がもらえるよう全力を尽くして勉強していきたいと決意したのです。

入学してからこれまでの生活を振り返ると、充実した日々を送ることができたと感じています。荒川化学の支持と激励があればこそ、安心して勉強が続けられます。心より深く感謝いたします。

■ 社会福祉活動

東京支店では、障がい福祉サービス事業所「コンパス」（障がいのある方に労働の機会を提供し、自立した生活ができるように内職作業、野菜づくり、パンの製造販売などをおこなうことで支援する団体）の、パンの出張販売を、2013年4月から月1回受け入れ、その活動に協力をおこなっています。



パンを販売する「コンパス」の皆さん

■ 献血活動

工場などでおこなわれた献血に、多くの従業員が参加しました。



献血活動の様子

■ 高校生の企業見学

文部科学省が未来を担う科学技術系人材を育てることをねらいとして指定する「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」である佐賀県立致遠館高等学校理数科の学生24名が、SSHカリキュラムの一環として、つくばサイエンス・アカデミーの紹介で2013年8月6日に筑波研究所を見学しました。



佐賀県立致遠館高等学校理数科の筑波研究所見学

■ 小学校での出前授業

研究所近隣の大阪市立放出小学校から、児童の理科離れを防ぐために協力して欲しいとの要請を受け、2013年10月22日と23日に放出小学校で6年生4クラス140名を対象に“出前授業”をおこないました。授業は、製紙用薬品の湿潤紙力剤とサイズ剤を取り上げ、実験も交えておこない、当社の製品が社会にどのように役に立っているかを解説しました。



放出小学校での出前授業

VOICE

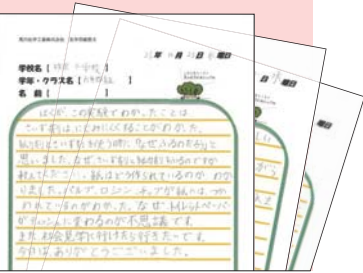
子どもたちが科学の不思議を感じ取った「出前授業」



大阪市立放出小学校
校長
小野 潤一郎 氏

お忙しい中、子どもたちが興味を引くように実験方法を工夫し、うまくまとまった授業をしていただきました。子どもたちは日頃何気なく使っている紙が、薬品で処理することで水に溶けにくくなったり書きやすくなったりすることを実験を通して知り、理屈は分からないまでも科学の不思議をしっかりと感じ取ることができたと思います。

また、授業後の子どもたち一人ひとりの感想に丁寧にコメントを付けていただき、皆様の人間的な温かさを感じました。急な依頼にもかかわらず、快く引き受けていただき、誠にありがとうございました。



■ ESD活動の赤松植林に協力

学校法人就実学園と地域社会が一体となりESD（Education for Sustainable Development：持続可能な社会のための教育）プログラムとして、里山再生事業に取り組んでおり、岡山県笠井山にある就実・森の学校で2013年12月と2014年3月の体験講座に参加し、赤松の植林をおこないました。



植林前の里山と植林作業

■ 「大井川源流域森林再生協議会」へ協賛

南アルプス南麓の大井川源流域の森林整備を推進し、森林の持つ高度な公共的機能の発揮と木材資源の有効活用による低炭素社会の実現への寄与を目的とした「大井川源流域森林再生協議会」へ協賛しています。

協議会の看板

株主・投資家とのかかわり

荒川化学グループは、IR・広報活動を通じ、株主や投資家の皆様からご理解いただき、ご信頼にお応えできるように努め、企業価値の継続的な向上を目指しています。

IR活動

アナリスト・機関投資家説明会を年2回開催し、社長自らが事業内容、経営成績、中期経営計画、今後の展望について説明するとともに、参加していただいた皆様からのさまざまなご質問にお答えしています。

また、個人投資家の皆様に向けては当社の事業内容へのご理解を深めていただくため、「個人投資家のためのIRフォーラム2013～ニッポンの未来をささえる企業～」に出展しました。当社製品が日常生活で使われている具体的な実例を展示物で示し、当社社員がご来場いただいた皆様に丁寧に説明するとともに、社長が『「つなぐを化学する」荒川化学の成長戦略』と題してセミナーを実施しました。

株主還元への取り組み

当社は安定的かつ継続的な配当を維持しつつ、積極的な株主還元に取り組むことを基本方針としています。配当につきましては、連結配当性向30%程度を目処に、安定的な配当の維持に努めていきます。

■ 地域の美化・清掃活動

多くの従業員が、地域の清掃活動などに参加しました。



各地の美化・清掃活動

■ 「関西・歌舞伎を愛する会」への参加

日本文化の発祥の地である関西において、世界に誇るべき伝統芸能である歌舞伎を興隆し、次代に伝えていくことを目的とする「関西・歌舞伎を愛する会」の趣旨に賛同して参加しています。



「船乗り込み」での公演前のお披露目

VOICE

個人投資家に向けたIR活動の活発化に期待



日興アイ・アール株式会社
コンサルティング営業部
部長
佐藤 暁 氏

昨年、東京で開催された一般個人投資家向け会社説明会に荒川化学も参加されました。NISA口座開設で増え続ける個人投資家の関心は、配当金額の多いところに向かうと思われます。その点、事業の基礎がしっかりしており、ここ数年の配当性向が30%超の荒川化学は、高評価が期待されます。来場者へのアンケート結果でも、天然資源であるロジンとの関わりなど、今回の説明会を聞いた多くの方々が好意的な反応を示し、また半数を超える方々が荒川化学への投資評価が上がったと回答しています。

その一方で今回の説明会で初めて荒川化学を知ったという回答も見られました。今後も、投資対象としての知名度アップの取り組みが重要だと思われます。

環境・安全報告

植物由来の天然樹脂ロジンを扱う荒川化学グループでは、環境問題や環境対応への取り組みはもちろん、製品を安全に生産し、安心してご利用いただけるよう管理体制の強化に努めています。

環境と安全についての方針

荒川化学グループでは地球環境と調和する事業活動をおこなうため、「環境保安基本方針」をもとに「環境保安行動指針」を定め、環境に優しく、生物多様性の確保に寄与する事業活動を進めています。

環境保安基本方針

製品の開発から廃棄に至るまでの環境、安全、健康を確保し、地球環境と調和する事業活動を行う
【2013年4月1日 取締役社長 谷奥 勝三】

環境保安行動指針

- 1. 環境および保安に関する法令を遵守し、社員一人ひとりがその重要性を認識する。
- 2. 事業活動において、環境の保全、生物多様性の確保、および社員・地域住民の安全・健康に配慮し、安全操業に努める。
- 3. 事業活動に伴う環境への負荷の低減、省資源・省エネルギーを推進する。
- 4. 事業活動における環境・保安事故および労働災害の防止のため事故事例を解析し、情報を収集して適切な防止対策を実施する。
- 5. 製品の開発および新プロセスの開発は、環境・安全・健康の確保に配慮して行う。
- 6. 製品、原材料等取扱い物質の環境・安全・健康への影響に配慮し、安全性の調査・研究に努める。
- 7. 製品の安全な取扱いを図るために顧客へ必要な情報を提供する。
- 8. 製品や事業活動に関する行政当局や地域住民の関心に留意し、より一層の信頼が得られるようコミュニケーションに努める。
- 9. 海外への事業展開において、当該国の法令を遵守するとともに、環境保全、生物多様性の確保、安全・健康の確保に努める。
【2011年4月1日 改訂 環境保安委員会】

環境保安基本方針の具体化

2020年を達成目途とした6項目の長期方針のもと、第3次中期経営計画における環境保安目標を策定、それをもとに2014年度の環境保安目標を設定して、環境への貢献、安全・保安の推進のための取り組みをスタートしました。

- 【長期方針】
- ① 環境に配慮したもののづくりと製品開発により社会に貢献していく。
 - ② 温暖化ガス排出削減を進め、地球温暖化防止に貢献していく。
 - ③ 再資源化を促進して、ゼロエミッションを達成する。
 - ④ 再生可能資源の利用、緑地の地域性確保などを促進し、生物多様性の確保に寄与する。
 - ⑤ 保安管理システムの継続的改善を進め安全風土を醸成し、災害・事故ゼロを目指す。
 - ⑥ BCPの管理システムを構築し、継続的運用を確実にする。

第3次中期経営計画 および 2014年度の目標

第3次中期経営計画・環境・保安目標	2014年度環境・保安目標
EMS全社体制構築	EMS全社体制構築準備（QMSと統合）
温暖化ガス排出量削減推進（2012年度比3%削減）	2012年度比2%削減
廃棄物のゼロエミッション化推進（最終埋立率0.1%以下）	最終埋立率1%以下
再生可能資源利用促進/生物多様性の確保の取り組み推進	ロジンの安定供給確保（松林の保全）の施策推進、工場緑地の保全、社内啓発
災害・事故ゼロ	災害・事故ゼロ
全社BCP運用/海外子会社BCP構築	全社BCP構築・運用/海外子会社BCP展開準備

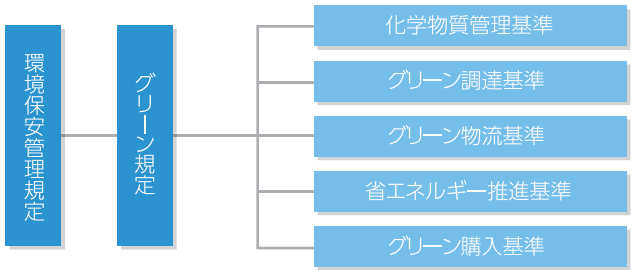
環境マネジメントシステムの推進

荒川化学グループでは、「環境保安基本方針」、「環境保安行動指針」、「環境保安管理規定」および「グリーン規定」をもとに各事業所で計画を立て環境に配慮した活動を実施しています。

グリーン規定

当社では、「グリーン」を「地球にやさしい状態」と定義し、「化学物質の適切な管理」、「大気、水域、土壌汚染の防止」「使用エネルギーおよび温暖化ガス排出の削減」「3Rすなわちリデュース（削減）、リユース（再使用）、リサイクル（再資源化）の実施」「廃棄物の適正管理」などをおこない、環境負荷低減を目的として掲げ、活動を進めています。また、目的を達成するための各部署における責務を明確にし、全社的に取り組みを推進、さらに、化学物質管理、グリーン調達、グリーン物流、省エネルギー推進、グリーン購入の5つの分野に分けて下位文書（基準）を作成し、具体的な取り組み内容を明確にしています。

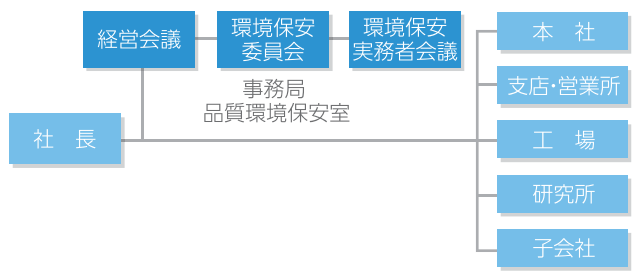
● グリーン規定の文書体系図



環境保安推進体制

荒川化学グループでは、環境・保安担当役員が委員長を務める環境保安委員会を最上位とする推進体制をとって、全社一丸となって環境と保安に取り組んでいます。

● 環境保安推進体制図



環境マネジメントシステム導入状況

荒川化学グループにおけるISO14001あるいは「エコアクション21※」の認証取得状況は以下のとおりです。

認証取得状況

事業所名	登録番号	認証取得日	審査実施日
水島工場	JQA-EM0369	1999年3月12日	2014年2月28-29日
富士工場	JQA-EM1427	2001年3月16日	2014年2月12-14日
小名浜工場	JQA-EM1577	2001年5月18日	2013年4月23-25日
大阪工場・研究所	JQA-EM1590	2001年5月25日	2013年3月12-15日
ペルノックス	JQA-EM3719	2004年1月30日	2013年10月21-23日
高圧化学	エコアクション21 0002736	2008年8月1日	2013年6月26日

（海外子会社）

事業所名	登録番号	認証取得日	審査実施日
台湾荒川化学	TW07/0113EM	2007年10月17日	2013年9月16日
南通荒川化学	00112E22127RIS/3200	2009年10月28日	2013年6月27-28日
荒川ヨーロッパ	RQA667146	2014年2月12日	2014年1月27-29日

※ エコアクション21：環境省のガイドラインに基づき（一般財団法人）持続性推進機構が認定。釧路・徳島・鶴崎の各工場、本社、支店、営業所、筑波研究所については荒川版環境マネジメントシステムを構築し、運用しています

環境マネジメントシステムの構築

荒川化学グループは環境改善活動の一環として、環境マネジメントシステムの構築を進めています。
荒川ヨーロッパにて、新たにISO14001を認証取得しました（2014年2月）。

VOICE

ISO14001認証取得の過程で、 環境・安全を再認識



荒川ヨーロッパ 研究所
タマラ・アブード

活動開始から1年で認証を取得することができました。この短期間で先に取得したISO9001の品質マニュアルに環境のISO14001の内容を組み込み、一つの文書として完成させることができたのは、荒川ヨーロッパ3拠点の全メンバーが一致団結したからこそ。さらに荒川ヨーロッパ全体として環境・安全に対する要求事項を再認識し、整理できたことに大きな意義があったと思います。このマネジメントシステムは、企業の継続的な改善や効果的な運営など、今後直面する課題解決の指針となっていくでしょう。

温暖化ガス排出量削減推進

2013年度は、釧路工場と小名浜工場で、ガスボイラーを導入しました。

生物多様性の確保の取り組み

学校法人就実学園と地域社会が一体となり、ESD（Education for Sustainable Development: 持続可能な社会のための教育）プログラムとして、里山再生事業が進められています。当社は、古くから松に深い関わりを持つこともあり、2013年12月と2014年3月に、このプログラムに参加しました。赤松の植林をおこなうボランティアを通して、生物多様性の大切さを学びました。

目標と実績、環境負荷の状況

荒川化学グループでは環境負荷低減活動と保安活動に向けた目標を掲げ、継続的かつ着実な活動を実施しています。

環境・保安活動の目標・実績

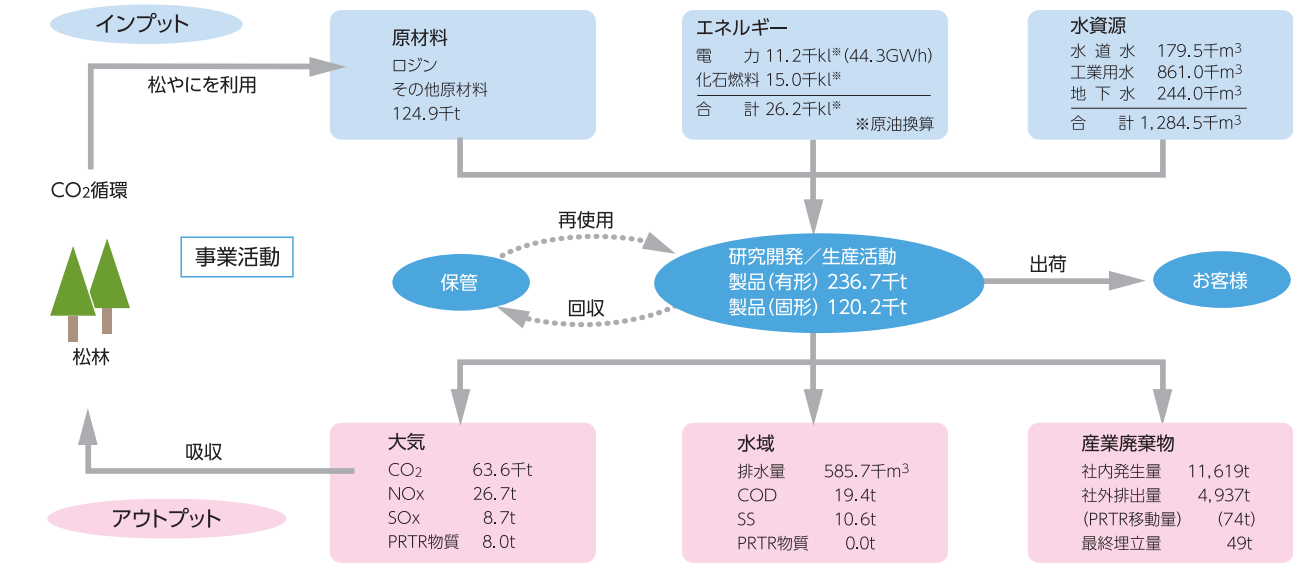
2020年度を達成目処とする長期方針のもと(P17参照)、第3次中期経営計画における環境・保安目標(2013～2015年度)を設定し活動しています。

具体的目標と実績は以下のとおりです(2014年度から保安活動も掲載しました)。

評価基準：○ほぼ目標通り達成 ×目標未達

重点テーマ	2013年度荒川化学グループの環境・保安活動				2014年度目標	2015年度目標
	目 標	実 績	評価	関連頁		
環境マネジメントシステム(EMS)の確立と維持	環境マネジメントシステム 全社体制の整備(運用準備)	外部認証の4工場、ペルノックス、 高圧化学は維持審査合格。その他 は社内版EMSの運用継続。	○	P18	環境マネジメントシステムの 全社化の検討	環境マネジメントシステムの 全社化
CO ₂ 排出量の削減	CO ₂ 排出量を 2012年度比1%削減	6.0%増加	×	P21	CO ₂ 排出量を 2012年度比2%削減	CO ₂ 排出量を 2012年度比3%削減
	エネルギー原単位を 2012年度比1%削減	2.8%減少	○	P21	エネルギー原単位を 2012年度比2%削減	エネルギー原単位を 2012年度比3%削減
産業廃棄物の削減	最終埋立率=(埋立量/発生量)×100 1%以下	最終埋立率 0.4%	○	P23	最終埋立率1%以下	ゼロエミッション達成 (最終埋立率0.1%以下)
化学物質の 適正管理	PRTR対象物質の排出量を 2012年度比1%削減	5.8%増加	×	P24	PRTR対象物質の排出量 を2012年度比2%削減	PRTR対象物質の排出量を 2012年度比3%削減
	—	—	—	P13	SDS・ラベル改訂 (JIS改正対応、システム改良)	SDS・ラベル改訂 (JIS改正対応、システム運用)
生物多様性の確保 のための取組推進 /再生可能資源・ エネルギーの利用 促進	生物多様性の確保のための 取組推進/再生可能資源・エ ネルギーの利用促進 (啓発、事業所緑地の保全、原 料ロジン安定供給の取組)	各事業所の環境マネジメントプロ グラムに取り入れて啓発活動や事 業所緑地の保全を実施した。 社会貢献で松の植林を実施した。	○	P18	生物多様性の確保のための 取組推進/再生可能資源・エ ネルギーの利用促進 (啓発、事業所緑地の保全、原 料ロジン安定供給の取組)	生物多様性の確保のための 取組推進/再生可能資源・ エネルギーの利用促進
災害・事故	災害・事故ゼロ(休業災害等)	休業災害2件、発火事故1件	×	P25	災害・事故ゼロ(休業災害等)	災害・事故ゼロ(休業災害等)
BCP (事業継続計画)	全社BCP構築・運用	2事業所が最終ステップに到達。 他も進行中。	○	P10	全社BCP構築・運用 海外子会社BCP展開準備	全社BCP運用 海外子会社BCP構築

環境負荷の状況



環境会計

荒川化学グループでは、環境会計をツールとして、環境にかかるコスト、効果、物量を把握、管理しています。

2013年度実績集計結果

- (1) 環境保全コストの投資額は71百万円で、2012年度より減少しました。円安・原油高によるコスト上昇が影響しています。主な投資としては、釧路工場はボイラー更新により燃料を天然ガスへ転換。小名浜工場は、LNGを燃料とするボイラー導入や排水処理場の汚泥脱水機の更新。研究所は電力需要の平準化にも貢献するガスヒートポンプ方式空調への更新などがありました。
- (2) 環境保全コストの費用は12億36百万円で若干、増加しました。
- (3) 経済効果は、廃棄物リサイクルの進展により、有価物の収入額が増えて、廃棄物処理費は減少しました。

環境保全コスト

(単位：百万円)

分 類	主な取り組みの内容	2011年度		2012年度		2013年度		関連頁
		投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額	
事業エリア内コスト		388	627	128	670	70	651	
①公害防止コスト	公害防止設備の導入・維持管理	351	306	102	337	47	341	P21-22
②地球環境保全コスト	省エネ型設備・機器の導入	12	51	26	55	16	54	P21-22
③資源循環コスト	廃棄物減量化・リサイクル、外部委託処理	25	270	0	278	7	256	P23
上下流コスト	包装容器のリサイクル	0	109	0	115	0	113	—
管理活動コスト	環境マネジメントシステムの維持	0	47	0	55	1	63	P18
研究開発コスト	環境配慮型製品の研究開発	0	323	0	335	0	394	P7-8
社会活動コスト	地域における環境保全活動	0	15	0	15	0	13	P15-16
環境損傷コスト	大気汚染負荷量賦課金	0	3	0	3	0	3	—
合 計		388	1,124	128	1,193	71	1,237	—

(単位：百万円)

	2012年度	2013年度
投資額の総額	862	1,035
研究開発費の総額	2,790	2,770

環境保全対策に伴う経済効果(実質的效果)

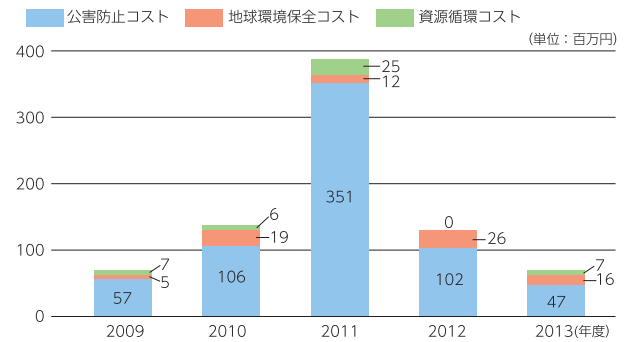
(単位：百万円)

効果の内容	金 額		
	2011年度	2012年度	2013年度
廃棄物のリサイクルによる事業収入	41	55	82
省エネルギーによるエネルギー費の削減	119	-39	-35
省資源またはリサイクルに伴う廃棄物処理費の削減	-1	-27	32
合 計	159	-11	79

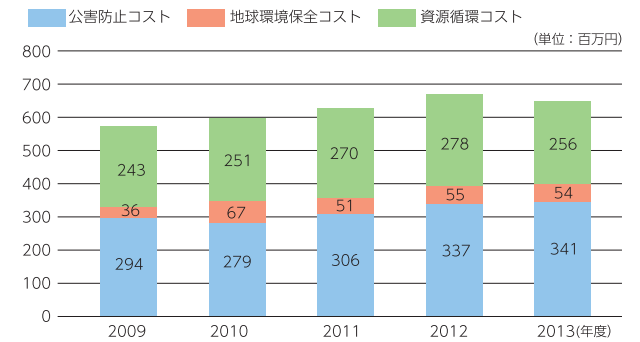
環境保全の効果

環境保全の効果(物量効果)は、環境保全活動(P21-24)のページに記載しています。

● 事業エリア内コスト(投資)の推移



● 事業エリア内コスト(費用)の推移



環境保全活動

環境への負荷を低減することは、事業活動を持続的に発展させるために不可欠な取り組みです。荒川化学グループではそのことを最優先課題として認識し、一丸となって取り組んでいます。

CO₂排出量の削減

さまざまな施策を実施しましたが、CO₂排出量は増加しました。

生産活動ではエネルギーを消費し、それに伴い地球温暖化ガスのCO₂を排出します。CO₂削減のため、種々の施策を実施しました。

- 重油ボイラーの天然ガス化 (小名浜工場、釧路工場)
- 屋内外の照明のLED化
- 機器のインバータ化
- 空調設備をガスヒートポンプ式に更新 (研究所)
- 受電設備の更新による高効率化 (本社、単身者寮)
- 遮熱塗装による建屋断熱性能向上 (小名浜工場、鶴崎工場など)
- 生産活動以外：WEB会議システムの導入 (出張減らし交通機関のCO₂削減)、営業車のハイブリッド化、省エネルギー勉強会、省エネルギー対策会議

2013年度は以上のような削減策を講じましたが、CO₂排出量は、前年度より増加しました。その原因は、生産量の増加 (3,700t-CO₂増加) および電力会社の火力依存度が高まったこと (2,900t-CO₂増加) が大きく影響しています。

これらの原因を除いて計算するとCO₂排出量は57千トンになります。

【今後の取り組み】

省エネルギーを主体にCO₂削減に向け、不断の努力を続けていきます。



倉庫建屋に設置された太陽光パネル (大阪工場)



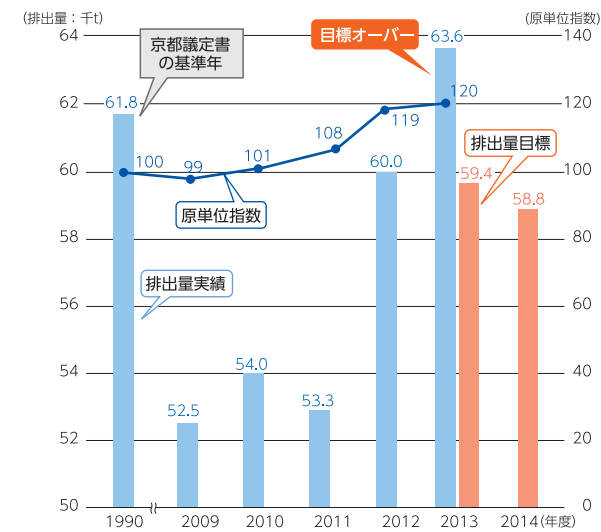
LNGボイラー (LNG:液化天然ガス) (小名浜工場)



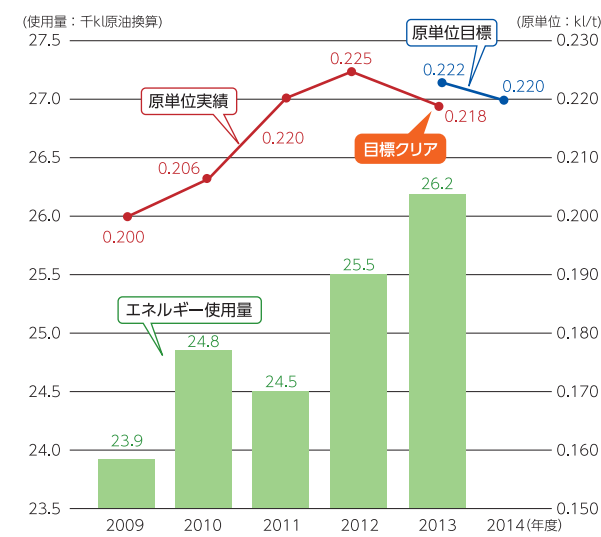
LNGタンク (小名浜工場)

WEB会議システムの風景 (本社と他事業所) (出張削減: サプライチェーンのCO₂削減)

● CO₂排出量の推移



● エネルギー原単位の推移



VOICE

非常用電源としても有効な太陽光発電



三菱化学株式会社
大阪支社 業務部門
営業推進部長
中野 邦弘 氏

荒川化学・大阪工場事務所入口に、視覚に“より効果的に訴える”大型液晶モニター(42インチ)を設置いたしました。リアルタイムでの発電状況を一目で確認でき、お客様や従業員の皆様に環境に対する貴社の姿勢を強くアピールすることも可能です。

また近年、企業のBCPの一環として、発生電力を外販せず非常用電源の機能を持たせる事例が増えつつあります。今回の貴社の太陽光発電設備設置がまさにその典型であり、環境への配慮だけでなく、社会的責任や地域貢献という企業姿勢の表れであると思われました。

物流のCO₂排出量削減

省エネルギー活動を通じてCO₂排出量の削減に努めています。

荒川化学は、「省エネ法」の特定荷主に該当しており、輸送によるエネルギー消費の減少に努め、実績および次年度の計画を報告するよう定められています。

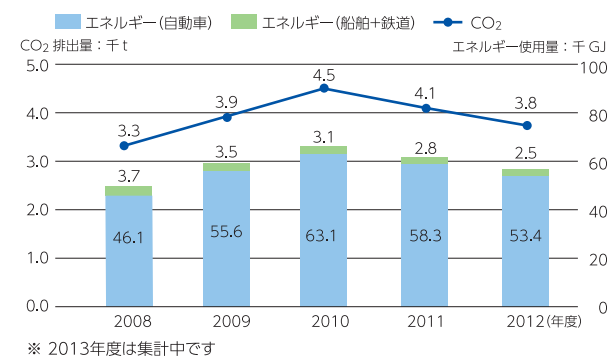
輸送距離短縮のためお客様に近い工場で生産をおこない、また燃費向上のため物流会社を指導をしたり、一度により多くの製品を輸送するように努めています。

また、CO₂発生が少ないとされる船舶・鉄道による輸送の割合は少なく、約5%で推移しています。

【今後の取り組み】

輸送の効率化、エコドライブなどで省エネルギー活動によりCO₂排出量削減を推進します。

● 輸送におけるCO₂排出量とエネルギー使用量



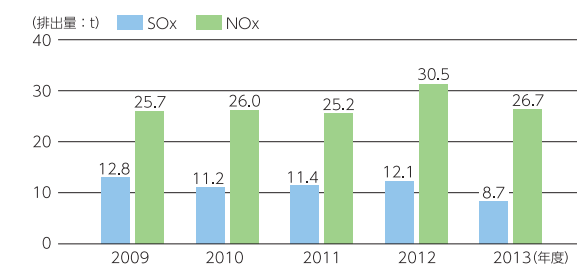
大気汚染防止

有害物質の大気へのさらなる排出削減を進めます。

硫酸化物 (SO_x) や窒素酸化物 (NO_x) は、法規制値に比べ、十分低い値を維持しています。さらに大気中への排出を減らすため、天然ガスを燃料に使用しています (大阪工場、富士工場)。天然ガスは、SO_xを発生させず、またNO_x、CO₂も重油燃料より大幅に少ない環境に優しい燃料です。2013年度は、釧路工場がボイラーを更新し、燃料を重油から天然ガスに転換しました。また、小名浜工場はLNG (液化天然ガス) を燃料とするボイラーを導入しました。

今後さらに燃料のガスへの転換を推進します。

● SO_x・NO_xの排出量



VOICE

ボイラー導入に際し、天然ガス使用もご決断いただきました



東京ガス株式会社
東部・茨城
産業エネルギー部
副課長
水上 雄介 氏

荒川化学・小名浜工場にLNGボイラーを導入いただきました。

ガスは「環境性」「安全性」「供給安定性」「経済性」に優れたエネルギーです。特に燃焼中にNO_x・SO_xを含まない上にCO₂排出量は重油よりも約25%削減できることから、ガスボイラーの導入は即効性のある環境対策といえます。

また、小名浜地区では天然ガスのパイプラインが整備されていないため、液体のままのLNGをタンクローリー車で輸送して、小名浜工場内に設置したタンク (LNGサテライト) に貯蔵し、現地で気化させて使用する方法を導入いただきました。天然ガスは石油に比べ可採年数が長く、近年のシェールガス革命によりさらに膨大な埋蔵量が見込まれ、中長期的には価格低減も期待されています。

水資源の保全

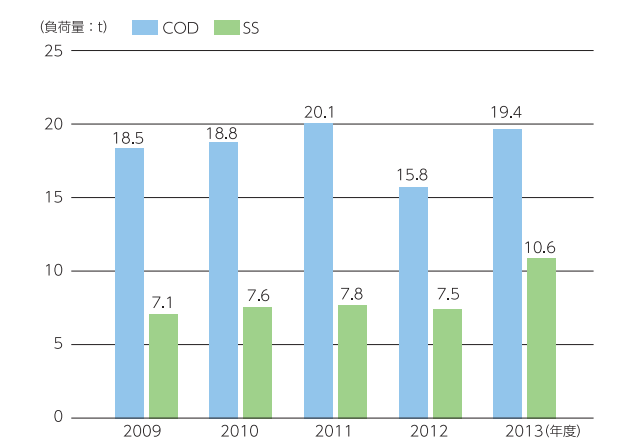
排水処理の管理に努め、法規制値を遵守しています。

工場では水溶液の製品を多く製造しており、水は重要な資源 (原料) です。製造工程で発生する汚水 (洗い水など) は、排水処理施設で浄化します。

化学的酸素要求量 (COD) やけん濁物質 (SS) などを監視し、規制値を下回っていることを確認してから工場外へ放流します。

2014年度も、排水処理の管理に努めていきます。

● COD・SS負荷量



環境保全活動

産業廃棄物の削減

リサイクルを進め、埋立量を削減しました。

2013年度は、廃溶剤、金属や廃触媒などの有効利用により2,800トン有価物として売却しました（前年比、224トン減少）。

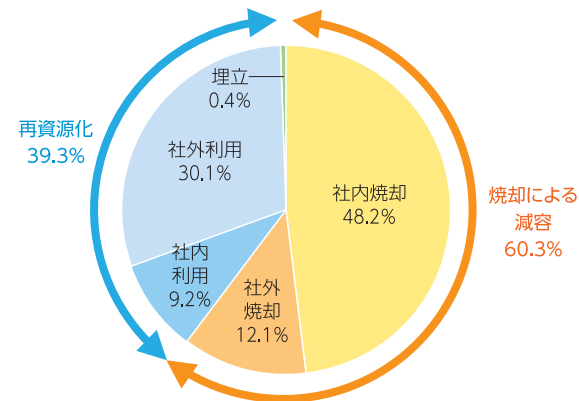
また、次のように産業廃棄物の環境への排出削減に取り組みました。

- 廃棄物発生量の少ない製品に置換（リデュース【発生減少】）
- 廃溶剤は燃料利用、汚泥はセメント原料や堆肥として利用（リサイクル【再資源化】）

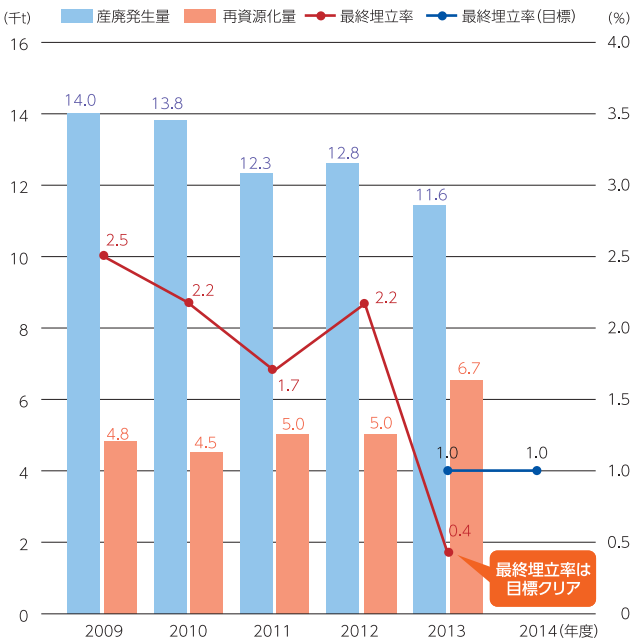
2013年度は、大阪・富士・小名浜工場のリサイクルが大きく進展したことにより、最終埋立率1%以下を達成しました。

（最終埋立率(%)=埋立量／産廃発生量×100）

● 2013年度 産業廃棄物処理の内訳



● 産業廃棄物の推移



VOICE

100%再資源化に向けた
廃棄物中間処理を担当



静和ケミカルサービス株式会社
代表取締役
和波 剛 氏

弊社は、荒川化学・富士工場から排出される廃棄物を収集運搬、弊社工場内にて廃棄物の性状に応じて適正・安全に無害化・安定化を図る中間処理をおこなっています。セメント原料や特殊燃料への100%再資源化を可能にするものです。

荒川化学が目指す「産業廃棄物の削減（リデュース・リサイクルの推進）」に向けて少しでもお役に立てるよう、また安心して信頼して廃棄物処理を任せられる廃棄物処理業者として、今後もより一層の努力をしてみたいです。

PCB廃棄物の管理

荒川化学グループでは、PCB含有トランスなどの電気機器を「廃棄物処理法」に従って適正に保管・管理しています。また、「PCB処理特別措置法」に基づくPCB廃棄物の処理計画に沿って、適切に処理を進めていきます。

土壌汚染対策

荒川化学グループの工場では、「土壌汚染対策法」で規定する特定有害物質を使用しており適切に管理しています。

2013年度は土壌汚染対策法に関わる形質変更、売却などの事例は発生しませんでした。

環境に関わる事故

荒川化学グループでは、2013年度、環境に関わる事故はありませんでした。

2013年5月、富士工場の脱臭設備で発火事故が発生しましたが、脱臭装置内での発火で、人的被害もなく環境に影響しませんでした。

環境関連の訴訟や環境関連法規制による処罰等はありませんでした。2014年度も環境関連の法律・条例などを遵守するとともに、環境保全活動をさらに徹底し、事故ゼロを目指していきます。

化学物質の適正管理（PRTR※法対象物質）

PRTR法対象物質を適正に管理しています。

■ 化学物質の排出・移動量

2013年度のPRTR法の対象物質の環境への排出量は前年度より増加しました。移動量は減少しました。

PRTR物質を含まない製品への置換、脱臭装置の稼働率アップなど、環境への排出量の減少に取り組みましたが、生産量の増加により増加しました。移動量は、廃棄物を有価で売却するリサイクルにより減少しました。

2014年度は、継続して排出量を監視していき、該当物質の使用量の抑制や環境対応設備の新設などにより環境への排出を減らしていくよう努力を続けます。

※ PRTRとは、有害性のある化学物質がどの発生源からどれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組みです

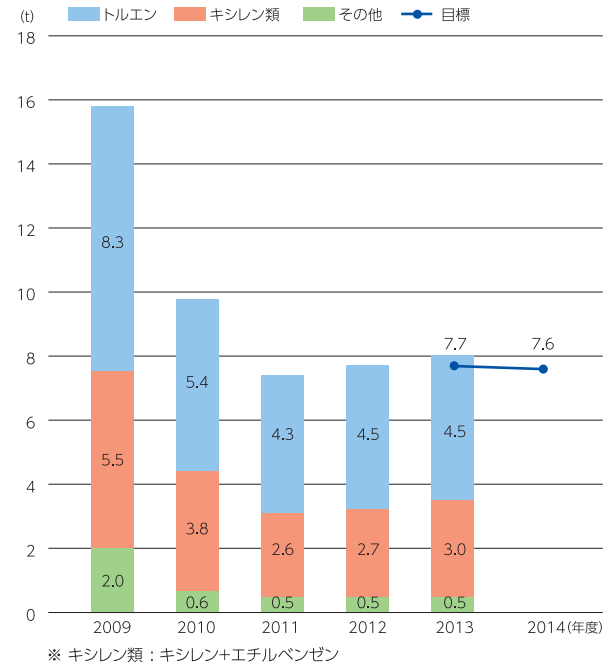
荒川化学グループPRTR対象物質の排出・移動量（主要11物質）

単位：kg（ただし、ダイオキシン類のみmg-TEQ）

PRTR対象物質	排出量			移動量		
	2011年度	2012年度	2013年度	2011年度	2012年度	2013年度
トルエン	4,321	4,513	4,494	33,890	19,415	10,882
エチルベンゼン	1,306	1,359	1,474	96,267	57,479	29,896
キシレン	1,306	1,374	1,492	96,267	57,479	29,896
アクリロニトリル	180	173	179	0	0	0
トリエチルアミン	92	101	112	0	0	0
エピクロロヒドリン	68	64	68	0	300	0
スチレン	40	36	34	0	20	0
ノルマルヘキサン	35	22	30	10,545	1,713	4
メタクリル酸メチル	23	30	36	0	0	0
フェノール	3	3	4	0	0	0
ホルムアルデヒド	2	2	1	4,433	0	0
その他*	47	72	50	12,044	3,798	2,902
合計	7,424	7,746	7,972	253,446	140,203	73,580
ダイオキシン類	0.039	0.027	0.014	1.30	3.81	0.41

※ その他：アクリル酸、酢酸ビニル、4-ターシャリープチルフェノール など

● PRTR法対象物質の環境への排出量



※ キシレン類：キシレン+エチルベンゼン

VOICE

環境設備を積極的に導入



大阪工場
保安課
竹田 明人

有機溶剤を取り扱うプラントの排ガスには化学物質が含まれている場合があります。大阪工場では現在3基の燃焼式脱臭装置を稼働し、大気への放出を防止しています。

また2011年度には、化学物質の荷卸し作業の際に通気管をタンクローリーに接続できるタンクを新たに設置。移動時に蒸発した化学物質を通気管から放出しないための対策です。

大阪工場は都市部に立地しており、においや音とともに化学物質への対策が重要だと思っています。これからも環境設備を積極的に導入し、環境負荷低減に努めていきます。

安全活動

荒川化学グループでは、化学メーカーの使命として製品のライフサイクルのすべてにおいて安全を最優先しています。

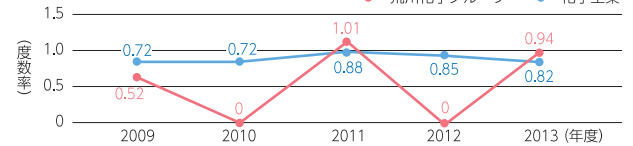
労働安全衛生活動

安全・安心で快適な職場環境づくりに努めています。

労働災害の状況

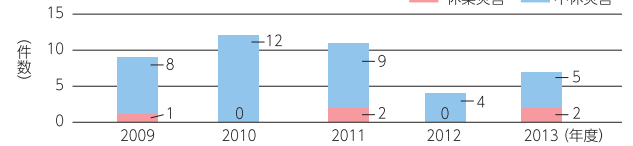
荒川化学グループでは、環境保安基本方針（P17参照）に基づき保安管理システムを運用し災害防止に取り組んでいます。2013年度の休業災害は2件（階段転落と路上転倒で脚部骨折）でした。2014年度は再発防止に取り組み労働災害ゼロを目指します。

労働災害度数率グラフ



度数率＝労働災害による死傷者数／延労働時間数 × 1,000,000
化学工業の労働災害度数率は以下の出典による
出典：厚生労働省「平成25年労働災害動向調査（事業所調査（事業所規模100人以上）及び総合工事事業調査）結果の概況」（平成26年5月8日発表）

労働災害発生件数



※ 不休災害：軽微な負傷でも医師の手当てを受けた場合は該当する

健康・安全管理

荒川化学グループでは、健康診断の実施とともに医療講話などを開催して健康・安全管理に努めています。

健康・安全管理実施状況

実施日	事業所	項目	内容
2013年5月24日	本社	全国物流安全会議	物流協会の安全
2013年9月19日	水島工場	交通講話	水島警察署による講話
2013年9月25日	富士工場	衛生講話	シミュレーションゲーム（メンタル）
2013年10月8日	東京支店	安全運転講習会	保険会社による講習
2013年10月25日	大阪工場・研究所	医療講話	メンタルヘルス
2013年10月31日	小名浜工場	産業医巡視報告	化学物質の拡散防止
2013年11月15日	本社	医療講話	健診へのアプローチ
2013年12月27日	高圧化学	健康講話	タバコの害と禁煙
2014年1月20日	東京支店	関東地域物流安全協会の	関東地域の物流安全
2014年1月21日	ペルノックス	衛生講話	PM2.5とタバコの関係
2014年2月28日	大阪工場・研究所	医療講話	ノロウィルス等の対策

安全衛生表彰

荒川化学グループの各事業所では、安全衛生活動に対する長年の貢献を評価されて、多くの従業員が関係団体から表彰されました。

安全衛生表彰・講演実績

受賞日	事業所	表彰団体	表彰・講演
2013年5月22日	富士工場	静岡県商工会連合会	優良従業員表彰（1名）
2013年6月11日	高圧化学	大阪西労働基準協会	安全週間説明会特別講演
2013年9月17日	本社	大阪府警察本部等	交通安全優良表彰
2013年10月17日	高圧化学	大正工業会	優良社員表彰（1名）
2013年10月23日	小名浜工場	いわき労働基準協会	産業安全功労者表彰（1名）
2013年11月19日	高圧化学	大阪市工業会連合会	優良社員表彰（1名）
2013年11月28日	本社・大阪工場	大阪府工業協会	優良従業員表彰（3名）

VOICE

他社交流で安全衛生レベルを向上（高圧化学の安全衛生活動）



大阪西労働基準協会
事務局長
三上 紀忠 氏

大阪西労働基準協会組織の下部組織・化学食品等安全推進委員会の会員である高圧化学工業様は、2006年7月より現在に至るまで労働災害ゼロを継続されており、トップの安全意識の高さが職場の隅々まで浸透していると思われます。

会員各社は事業所を相互訪問するなどの活動を通じて、自社の特性に合わせた高いレベルの安全衛生活動を展開されていますが、大阪の行政当局では新たに「安全見える化運動」を推奨、日常作業での注意喚起を促しています。凡事徹底を実践し、貴社を超える9,000日以上 の災害ゼロを継続されている会員事業場もあります。引き続き、安全衛生管理の徹底をお願いいたします。

環境・安全の教育

各事業所は、環境マネジメントシステムおよび保安管理年間計画を策定して、環境教育および保安防災訓練を実施しています。

また、教育研修制度の一環として通信教育講座を開設しており、修了により補助金が支給されます。2013年度は、環境に関わる「eco検定受験コース」などが開講され、品質・環境・安全関連では44名が受講しました。その他、67名が資格取得のために、「公害防止管理者国家試験受験講座」などの講座を受講しました。

環境教育実施状況

教育内容	2012年度	2013年度
省エネ教育	60	60
ISO14001教育	569	467
自覚・啓発教育	133	280
合 計	762	807

資格取得

荒川化学グループで必要とする環境・保安に関わる資格を表に示します。法律で定められている人員を充足していますが、新入社員、異動者を主体にして、資格取得の推進を図り、従業員のステップアップにつなげています。

環境、安全に関わる資格

資格名称	2012年度末	2013年度末
公害防止管理者	52	51
エネルギー管理士	10	8
エネルギー管理員	9	9
廃棄物処理施設技術管理者	8	8
特別管理産業廃棄物管理責任者	31	33
環境計量士	2	3
作業環境測定士	1	1
衛生管理者	27	28
ボイラー技士	202	206
危険物取扱者	806	839
高圧ガス製造保安責任者等	109	116

保安・防災活動

全従業員のステップアップを目指しています。

保安体制

役員を委員長とする環境保安委員会（P18参照）のもとで、安全・保安への取り組みを進めています。この委員会が出された基本方針に基づき、各事業所では、年度ごとに「保安管理計画」を策定し、目標達成に向けて日々の活動に取り組めます。

また、安全面を含めて、事業所で発生したトラブルについては、生産統轄部が隔月で開催するPQC*会議の場において情報を共有することで、類似トラブルの防止につなげています。

品質環境保安室では、環境や品質、保安に関して、国内外の事業所および子会社に対する監査を年に1、2回、実施し、必要に応じて適切な指導を実施しています。

※ PQC：プロダクト・クオリティ・コントロール

危機管理マニュアルとBCP策定

化学メーカーとして多数の危険物を取り扱い、貯蔵していることから、地震や津波、火災、漏えい事故など不測の災害に対応するために「危機管理マニュアル」を策定し万一の事態に備えています。

最近では、東日本大震災の教訓を踏まえてBCP（事業継続計画）の策定を進めています。緊急事態が発生しても、事業を中断することなく、または中断しても早期復旧することにより、企業としての社会的責任を果たすための計画です。

高圧ガス認定事業所の活動（水島工場）

自ら完成・保安検査をおこなうことのできる「認定（完成・保安）検査実施者」および「ボイラー等の開放検査周期認定」を取得。高圧ガス認定では、都道府県知事に代わって、申請施設に関わる法定検査を自主検査としておこなうことができる制度です。

認定取得事業所においては、法令で定められた保安に関する取り決めを遵守することはもちろんのこと、さらなる保安のレベルアップを目指して、生産活動、設備管理、設備検査のすべての面において、荒川化学全体が一丸となって確実に活動を進めています。設備の検査方法についても、より確実で精度の高い最新の方法を活用できるよう取り組んでいます。



熱交換器の水浸UT検査（非破壊検査）

海外子会社に対する指導

荒川化学の生産統轄部では、海外子会社に対し、指導者を派遣し、改善に取り組んでいます。

防災訓練

事業所では年間計画を立てて防災訓練を繰り返し実施するとともに、近隣他社や地域の消防署と合同訓練を計画して、地域と連携した防災訓練も実施しています。

防災訓練一覧表

実施日	事業所	内 容
2013年5月7日	台湾荒川化学	有毒物質共同防災訓練
2013年5月29日	本社	BCPセミナー（訓練）
2013年7月24日	大阪工場・研究所	合同防災訓練
2013年8月13日	高圧化学	地震・津波防災訓練
2013年9月9日	富士工場	総合防災訓練（地震）
2013年9月25日	徳島工場	津波想定防災訓練
2013年10月6日	富士工場	富士市ポンプ線法大会4連覇
2013年10月21日	本社	消防訓練（AED救命講習）
2013年11月7日	水島工場	コンビナート総合防災訓練
2013年11月13日	南通荒川化学	防災訓練
2013年11月25日	小名浜工場	消防合同防災訓練
2013年11月29日	鶴崎工場	地震避難訓練
2013年12月20日	荒川ケミカル（タイ）	緊急時対応訓練
2014年1月13日	釧路工場	消防署合同研修会
2014年1月16日	大阪工場	BCP訓練
2014年1月27日	ペルノックス	総合火災消防訓練



大阪工場・研究所／合同防災訓練



本社／AED救命講習



富士工場／ポンプ線法大会4連覇



水島工場／総合防災訓練

VOICE

講師として消防本部との初の合同研修に参加



釧路工場
盛 美佐夫

釧路市内の工場で化学物質に関わる火災が発生したことから、釧路市消防本部より有事に備え、研修会開催のご要望がありました。民間企業が主導する研修会は初の試みとのことでしたが、化学工場を理解していただく好機と考え、快く引き受けました。危険物や劇物の重合による影響などについて講演後、当社工場にて現物を前にお話いたしました。消防隊と危険物を扱う工場間での情報共有の重要性や予測不可能な事態が招く社会影響などを再認識していただけたと思います。

そして、私たち釧路工場全従業員も一枚岩で結束、安全操業に対する誓いを新たにしました。

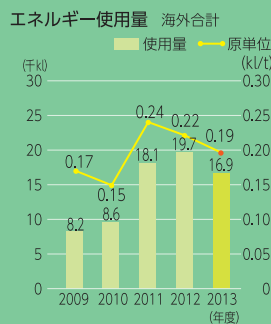
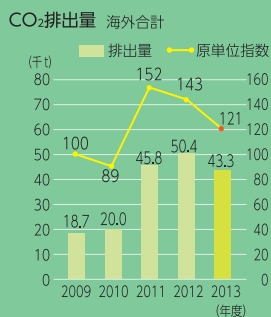
サイト別活動報告

■国内・海外拠点



●海外のパフォーマンス 海外合計

インプット	
エネルギー	電力 (GWh) 21.1 化石燃料 (千kl) 12.0 合計 (千kl原油換算) 16.9
水資源	水道水 (千m ³) 327.9 工業用水 (千m ³) 4,912.0 地下水 (千m ³) 0.0
アウトプット	
大気への環境負荷	CO ₂ (千t) 43.3
水域への環境負荷	COD (t) 25.8 SS (t) 2.1 排水 (千m ³) 139.6 社内発生量 (t) 1,206.9
産業廃棄物	社外排出量 (t) 1,097.7 最終埋立量 (t) 359.0
製品 (固形) (千t)	90.6



荒川ヨーロッパ



環境管理責任者：田原 勝彦



所 在 地：Duesseldorfer Strasse 13, D-65760 Eschborn, Germany
設 立：1998年11月 敷地面積：18,902m²
従 業 員：19名、協力会社員24名
主要製品：粘着・接着剤用樹脂

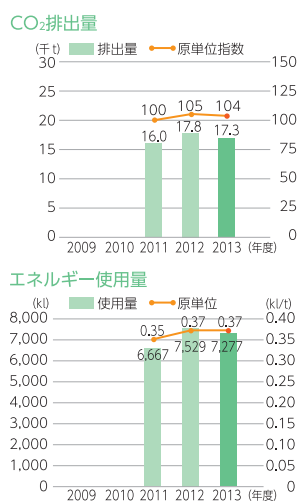
当社は荒川化学とダウ・ケミカル社の合併会社から2010年に荒川化学の100%子会社になりました。ドイツのライブチヒ近郊に当社のベーレン工場があります。2013年はCO₂発生量、エネルギー使用量、産業廃棄物の発生量を削減することができました。

また、2013年は前年のISO9001に続き、新たな荒川ヨーロッパ社としてISO14001の認証を取得しました。今後もエネルギーの有効利用、環境負荷の低減活動、環境コミュニケーションなど全員参加による環境活動を継続的におこない、2014年はISO50001 (エネルギー管理) の取得に挑戦していきます。

●環境パフォーマンス

インプット	
エネルギー	電力 (GWh) 7.8 化石燃料 (千kl) 5.3 合計 (千kl原油換算) 7.3
水資源	水道水 (千m ³) 0.0 工業用水 (千m ³) 4,912.0 地下水 (千m ³) 0.0
アウトプット	
大気への環境負荷	CO ₂ (千t) 17.3
水域への環境負荷	COD (t) 0.4 SS (t) 0.0 排水 (千m ³) 5.2 社内発生量 (t) 707.0
産業廃棄物	社外排出量 (t) 707.0 最終埋立量 (t) 0.0

●工場トレンド



保安への取り組み

ドイツでは各事業所に最低2名の救急救命教育受講者の選任が求められており、ベーレン工場の社員は2日間にわたる講習を受講しました。心肺蘇生法やAEDの取り扱いを中心とした日常起こりえる怪我などへの応急手当に関する知識と技術を身に付けています。



救急救命教育受講者のユング(左)と小菅(右)

広西梧州荒川化学工業



環境責任者：梁 君雪



所 在 地：中国広西壮族自治区梧州市外向型工業園区五路一号
設 立：2008年12月 敷地面積：95,545m²
従 業 員：230名
主要製品：ロジン、製紙用薬品、粘着・接着剤用樹脂 など

当社は中国国内でも有数の松原生林を有し豊富な松やにが採取できる中国南方の広西壮族自治区の梧州市の工業園区内に所在しています。この有利な立地条件を活かし、松やにを原料とする林産化学品を生産しています。中国においても近年環境問題がクローズアップされており、当社では昨年、蒸気ボイラー燃料を石炭から木粉(廃材利用)に変更し、エネルギーの有効利用、廃棄物の削減に取り組んでいます。また今年は熱媒ボイラー燃料を重油から天然ガスへの変更を計画しており、環境負荷の低減、地球環境に優しい製品づくりに取り組んでいます。

南通荒川化学工業



環境管理責任者：成 浩陽



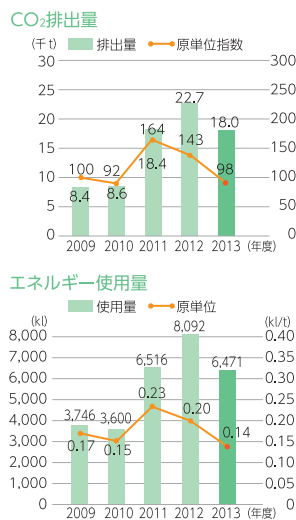
所 在 地：中国江蘇省南通市南通經濟技術開發区江河路18号
設 立：2004年4月 敷地面積：49,942m²
従 業 員：63名、協力会社員5名
主要製品：製紙用薬品、印刷インキ用樹脂 など

当社は2005年より南通經濟技術開發区にて生産を開始し、安全監督局、環境保護局の指導のもとに、毎年、安全管理、環境改善の強化をおこなっております。昨年、新たに製造を開始した印刷インキ用樹脂を含む安全生産許可書を取得しました。また、消防設備増設、事故池や排水の自動COD測定器設置等もおこないました。PM2.5等の環境問題が大きく取り上げられる中、エネルギー原単位の低減はもちろんのこと、排気の改善、資源回収と廃棄物管理による外部環境負荷の低減を目標として活動しています。

●環境パフォーマンス

インプット	
エネルギー	電力 (GWh) 8.1 化石燃料 (千kl) 4.4 合計 (千kl原油換算) 6.5
水資源	水道水 (千m ³) 195.0 工業用水 (千m ³) 0.0 地下水 (千m ³) 0.0
アウトプット	
大気への環境負荷	CO ₂ (千t) 18.0
水域への環境負荷	COD (t) 21.7 SS (t) 1.4 排水 (千m ³) 87.1 社内発生量 (t) 154.0
産業廃棄物	社外排出量 (t) 0.0 最終埋立量 (t) 154.0

●工場トレンド



環境への取り組み

梧州市の工業園区では毎年春に緑化、美化を目的とした植樹活動があり、当社も毎年積極的に参加し工業園区緑化プロジェクトを支援しています。また会社事務所横には緑化活動の一環として原料ロジンと関わりの深い松を植樹し、松の成長を通して身近に資源、環境の大切さの意識向上を図っています。

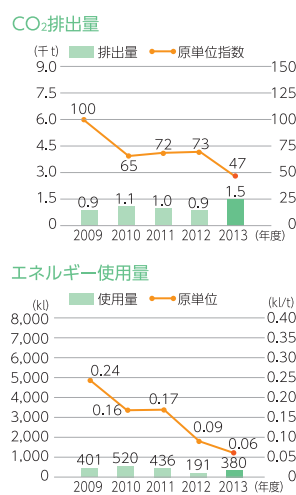


事務所横の松の植樹

●環境パフォーマンス

インプット	
エネルギー	電力 (GWh) 1.8 化石燃料 (千kl) 0.4 合計 (千kl原油換算) 0.4
水資源	水道水 (千m ³) 42.5 工業用水 (千m ³) 0.0 地下水 (千m ³) 0.0
アウトプット	
大気への環境負荷	CO ₂ (千t) 1.5
水域への環境負荷	COD (t) 0.6 SS (t) 0.1 排水 (千m ³) 5.2 社内発生量 (t) 130.4
産業廃棄物	社外排出量 (t) 175.2 最終埋立量 (t) 0.0

●工場トレンド



環境への取り組み

930m²の事故池(2013年1月完成)は、火災が発生した際に消火水も工場外へ直接排出させない埋設設備であり、災害時まで配慮した設備となります。また、2014年4月より稼動した放流水自動COD測定装置は、排水の最終の監視役として活躍中です。



工事中の事故池

荒川ケミカル(タイランド)



副社長兼工場長：藤井 裕二



所在地：No.3 Soi G4 Hemaraj Eastern Industrial Estate(Maptaphut)
Pakornsongkrorach Road, T. Huaypong A, Muang Rayong 21150 Thailand
設立：1995年7月 敷地面積：10,315m²
従業員：13名 主要製品：合成ゴム重合用乳化剤 など

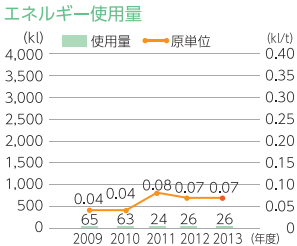
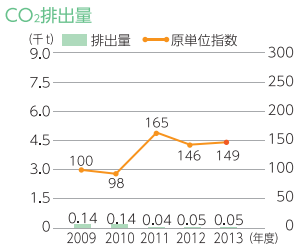
当社はバンコクの南東、ラヨン県マプタプット地区ヘマラートイースタン工業団地内にあります。同工業団地には、タイ大手石油化学会社のサイアム化学グループやPTTグループの他、日系の大手化学会社も入居しています。タイでは、近年公害問題が深刻化しています。政府は、工場から出る廃棄物、NOx、SOx等の規制をより強化しており、さらに資源の再利用、緑地の拡大を推進しています。当社は、ISO 9001を取得後、環境活動にも注力し、消費エネルギーの低減、安全操業、労働環境の改善、リサイクルによる廃棄物の削減に全従業員で取り組んでいます。

●環境パフォーマンス

インプット		
エネルギー	電力 (GWh)	0.1
	化石燃料 (千kl)	0.0
	合計 (千kl原油換算)	0.0
水資源	水道水 (千m ³)	4.6
	工業用水 (千m ³)	0.0
	地下水 (千m ³)	0.0

アウトプット		
大気への環境負荷	CO ₂ (千t)	0.0
水域への環境負荷	COD (t)	0.0
	SS (t)	0.0
	排水 (千m ³)	0.5
	社内発生量 (t)	10.5
産業廃棄物	社外排出量 (t)	10.5
	最終埋立量 (t)	0.0

●工場トレンド



環境への取り組み

当社では、8年前より原料ロジンの廃ドラムを回収リサイクルしています。その結果、廃棄物の90%の削減に成功しています。また、工場内に、2013年、新たにCasuarinaという熱帯の木を66本植え、工場緑地エリアの拡大に積極的に取り組んでいます。



工場緑地エリアの拡大

台湾荒川化学工業



環境管理責任者：潘 扶磯



所在地：台湾基隆市六堵工業区工建南路4号
設立：1967年5月 敷地面積：7,362m²
従業員：52名、協力会社員6名
主要製品：製紙用薬品、印刷インキ用樹脂、粘着・接着剤用樹脂、合成ゴム重合用乳化剤 など

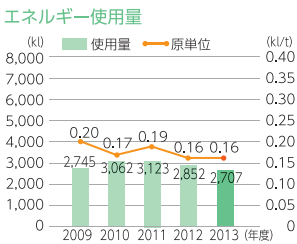
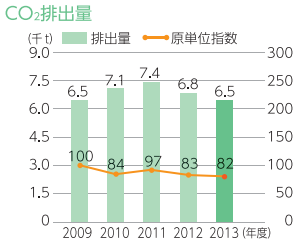
台湾では環境規制が強化されています。そのような状況下、2013年度は前年度に引き続き省エネルギーや廃棄物、排水量の削減に注力してきました。省エネルギー関係では、工場内LED照明への置換、インバータの設置、資源リサイクル(紙リサイクル)、回収蒸気の利用などを実施し、電気代は前年度対比で約9%削減できました。一方、排水関係ではCOD自動測定装置を導入して作業の効率化を図りつつ、異常排水を防ぐことも可能となりました。今後はクリーンエネルギーとして重油からガスへの転換も見すえて、種々検討を開始していきます。

●環境パフォーマンス

インプット		
エネルギー	電力 (GWh)	3.3
	化石燃料 (千kl)	1.9
	合計 (千kl原油換算)	2.7
水資源	水道水 (千m ³)	85.8
	工業用水 (千m ³)	0.0
	地下水 (千m ³)	0.0

アウトプット		
大気への環境負荷	CO ₂ (千t)	6.5
水域への環境負荷	COD (t)	3.1
	SS (t)	0.6
	排水 (千m ³)	41.6
	社内発生量 (t)	205.0
産業廃棄物	社外排出量 (t)	205.0
	最終埋立量 (t)	205.0

●工場トレンド



環境への取り組み

当社の排水は所定処理後に排水処理場に送っていますが、COD測定がリアルタイムでできず、迅速に測定できる装置を探していました。当然日本製が良いと考え何度かトライするもののデータが振れて使用不可の結果でした。最終的に台湾製が問題なく使用できています。何事も先入観は危険だと再認識しました。



排水処理のCOD自動測定装置

ペルノックス



環境管理責任者：仲村 聡史



所在地：神奈川県秦野市菩提8番地7
設立：1970年1月 敷地面積：22,177m²
従業員：144名、協力会社員3名
主要製品：電子材料用配合製品
(電子部品、光学部品、自動車部品、その他工業部品)

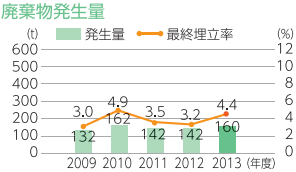
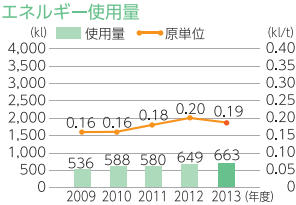
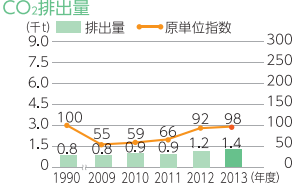
環境活動の一環として、2013年度は製品廃棄物の削減に重点的に取り組みました。開発面では顧客要求に対応した製品中の環境負荷物質削減と、環境貢献型製品の開発に注力しています。また、製品の化学物質管理要求が厳しくなる中、常に最新情報を提供すべく化学物質総合管理ツールを導入し、原料・製品情報のデータベース化に取り組んできました。2014年度よりツールによる「安全データシート」の管理を開始します。

●環境パフォーマンス

インプット		
水資源	水道水 (千m ³)	3.6
	工業用水 (千m ³)	0.0
	地下水 (千m ³)	0.0
原材料 (千t)		3.7

アウトプット		
大気への環境負荷	NOx (t)	0.0
	SOx (t)	0.0
	PRTR物質 (t)	0.8
	COD (t)	0.0
水域への環境負荷	SS (t)	0.0
	排水 (千m ³)	3.6
	PRTR物質 (t)	0.0
		3.5

●工場トレンド



環境への取り組み

環境保安グループでは、化学物質管理教育として2013年度より部門への定期的な教育を開始しました。国内外法令や業界の最新情報、タイムリーなトピックスを取り上げ、法令遵守のみならず顧客ニーズへの迅速かつ確な対応ができるよう会社全体のレベルアップを図っています。



化学物質管理教育

高圧化学工業



環境管理責任者：糸井 泰



所在地：大阪市大正区鶴町5丁目1番12号
設立：1959年3月 敷地面積：8,970m²
従業員：65名、協力会社員3名
主要製品：ファインケミカル製品の受託製造 など

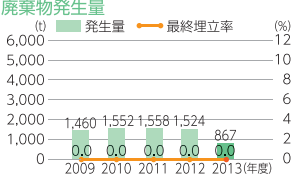
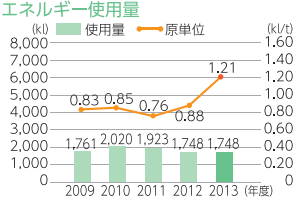
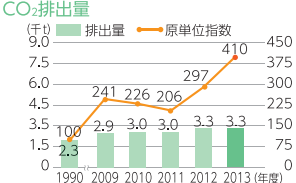
2008年にエコアクション21の認証を取得以来、環境行動推進と環境管理をおこなっています。本年度は新たに総排水量の削減として上水・排水量6,000トン削減を達成しました。環境方針に「環境負荷の少ない製品実現を推進する」を加え環境負荷の少ない製品設計を積極的に進めています。また、複数の顧客パートナーとして認証していただいています。環境法規制について積極的に関係官庁を訪問し、直接に法の趣旨など詳細を聴取して対応しています。

●環境パフォーマンス

インプット		
水資源	水道水 (千m ³)	27.8
	工業用水 (千m ³)	0.0
	地下水 (千m ³)	0.0
原材料 (千t)		2.6

アウトプット		
大気への環境負荷	NOx (t)	1.2
	SOx (t)	0.0
	PRTR物質 (t)	0.3
	COD (t)	1.1
水域への環境負荷	SS (t)	0.3
	排水 (千m ³)	27.8
	PRTR物質 (t)	0.0
		1.4

●工場トレンド



環境への取り組み

環境方針に設定された「環境にやさしい製品の実現」のため、開発段階から環境負荷低減をおこなうためのチェックリストを作成、運用しています。使用量削減・再利用・再資源化の可能性を抽出し、環境にやさしい3製品の開発をおこないました。今後も継続して実施していきます。



環境負荷低減チェック担当の太木 隆行

大阪工場（研究所含む）



環境管理責任者：竹田 明人

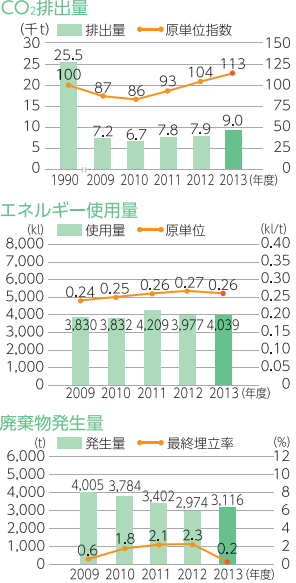
所在地：大阪市鶴見区鶴見1丁目1番9号
設立：1936年11月 敷地面積：33,563m²
従業員：327名、協力会社員32名
主要製品：製紙用薬品、塗料用樹脂、粘着・接着剤用樹脂、
合成ゴム重合用乳化剤、光硬化型樹脂 など

大阪工場は、研究所も含めて大阪事業所として環境管理活動をおこなっています。2013年度は、生物多様性への貢献を新たな環境目標に設定し、研究所では壁面緑化の充実を図り、また大阪工場においても、工場内に新たに緑地を増設し、環境に配慮した事業所づくりを進めています。2012年度に設置した太陽光発電設備もフル稼働となり、CO₂削減にも貢献しています。廃棄物は埋立処分をリサイクルに変更するなど取り組んでいます。

●環境パフォーマンス

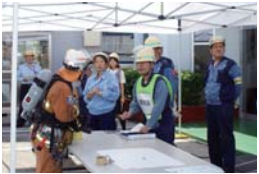
インプット		
水資源	水道水 (千m ³)	31.2
	工業用水 (千m ³)	105.1
	地下水 (千m ³)	0.0
原材料 (千t)		18.9
アウトプット		
大気への環境負荷	NOx (t)	4.4
	SOx (t)	0.9
	PRTR物質 (t)	0.2
	COD (t)	5.2
水域への環境負荷	SS (t)	4.3
	排水 (千m ³)	90.2
	PRTR物質 (t)	0.0
製品 (千t)		33.8

●工場トレンド



保安への取り組み

大阪工場は所轄の消防署との連携を図るために、毎年合同で防災訓練を実施しています。化学工場での火災においては、危険物や劇物の使用状況の把握が最も重要になります。このため、2013年度は消防署への適切な情報提供を目的に訓練をおこないました。



合同防災訓練

富士工場



環境管理責任者：泉 敏彦

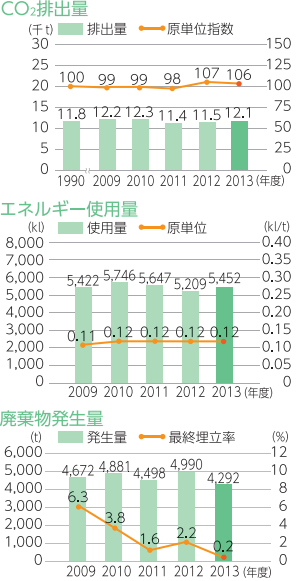
所在地：静岡県富士市厚原366-1
設立：1959年12月 敷地面積：50,390m²
従業員：86名、協力会社員20名
主要製品：製紙用薬品、印刷インキ用樹脂、塗料用樹脂、
粘着・接着剤用樹脂 など

2013年度環境目標の排水処理の改善、省エネルギー活動はほぼ目標を達成できました。燃料等の値上がりもあり、省エネルギーに取り組む姿勢や意識を高く持つことができました。またISO14001定期審査では、全社の環境マスター制度で当工場の改善活動のノウハウが共有化され今後の大幅な成果が期待できるとグッドポイントの評価を受けました。廃棄物はリサイクルを進め、大幅に埋立処分量を減らしています。

●環境パフォーマンス

インプット		
水資源	水道水 (千m ³)	28.6
	工業用水 (千m ³)	117.3
	地下水 (千m ³)	244.0
原材料 (千t)		36.5
アウトプット		
大気への環境負荷	NOx (t)	6.0
	SOx (t)	0.5
	PRTR物質 (t)	4.1
	COD (t)	7.1
水域への環境負荷	SS (t)	1.9
	排水 (千m ³)	231.7
	PRTR物質 (t)	0.0
製品 (千t)		79.1

●工場トレンド



保安への取り組み

富士工場では、リスク低減活動として、保安管理システムの運用、ヒューマンエラー防止活動の推進に取り組んでいます。保安管理の重点活動として、危険性・有害性の周知と教育、高リスク項目低減活動に取り組んでいます。今後も安全性向上のため全員一丸となって取り組んでいきます。



交代勤務の引継ぎショートKY風景

水島工場



環境管理責任者：大島 信幸

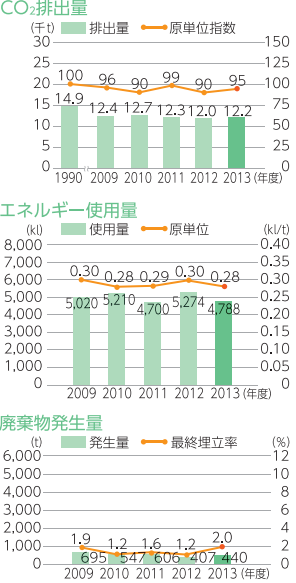
所在地：岡山県倉敷市松江4丁目1番1号
設立：1970年6月 敷地面積：74,023m²
従業員：社員57名、協力会社員9名
主要製品：製紙用薬品、粘着・接着剤用樹脂 など

2013年度の環境目標は、省エネルギー活動、環境対策としてCO₂削減、排水処理負荷の削減に取り組んできました。省エネルギー活動で自社発生の副生油の有効利用のためボイラーの能力を増強したこと、また、TPM活動による地道な省エネルギーの取り組みが目標達成に貢献したことが、ISO14001審査でもストロングポイントとして評価されました。今後も地道な活動を大切にし、PDCAサイクルを回し改善に取り組んでいきます。

●環境パフォーマンス

インプット		
水資源	水道水 (千m ³)	28.9
	工業用水 (千m ³)	87.9
	地下水 (千m ³)	0.0
原材料 (千t)		25.6
アウトプット		
大気への環境負荷	NOx (t)	1.0
	SOx (t)	0.0
	PRTR物質 (t)	0.1
	COD (t)	0.6
水域への環境負荷	SS (t)	0.2
	排水 (千m ³)	89.0
	PRTR物質 (t)	0.0
製品 (千t)		30.7

●工場トレンド



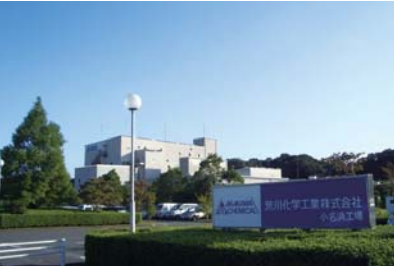
環境への取り組み

地域社会が一体となった里山再生事業として地元の就実学園が取り組んでいる竹林整備と松林復活のための植林の推進活動に本社および水島工場よりボランティアで参加しました。今は荒れ果てた雑木林ですが、赤松を植林し昔の松林に再生する活動を今後も支援していきます。



地域貢献の赤松の植林

小名浜工場



環境管理責任者：川上 修吾

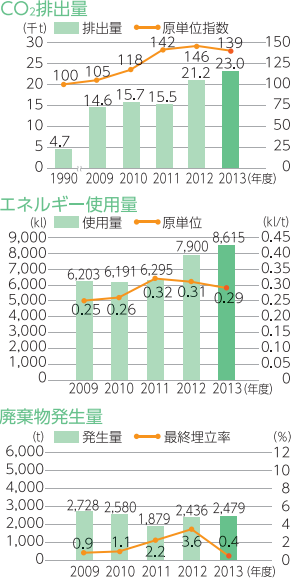
所在地：福島県いわき市泉町下川字大剣399番地5
設立：1989年11月 敷地面積：90,315m²
従業員：70名、協力会社員33名
主要製品：製紙用薬品、印刷インキ用樹脂、塗料用樹脂、
粘着・接着剤用樹脂、光硬化型樹脂 など

2013年度に小名浜工場ではLNG(液化天然ガス)を燃料とする蒸気ボイラーを新設しました。LNGは燃焼性に優れ、CO₂の排出量が化石燃料の中で最も少ないクリーンな燃料です。工場敷地内にはLNGサテライト設備を新設しており、将来に向けて工場全体の燃料置換(重油→ガス)に活用していく予定です。今後も世界的なシェールガス革命の流れに乗り、地球温暖化防止と省エネルギーに取り組んでいきます。

●環境パフォーマンス

インプット		
水資源	水道水 (千m ³)	9.6
	工業用水 (千m ³)	520.8
	地下水 (千m ³)	0.0
原材料 (千t)		27.2
アウトプット		
大気への環境負荷	NOx (t)	13.3
	SOx (t)	5.5
	PRTR物質 (t)	2.1
	COD (t)	1.3
水域への環境負荷	SS (t)	0.3
	排水 (千m ³)	116.2
	PRTR物質 (t)	0.0
製品 (千t)		39.6

●工場トレンド



保安への取り組み

小名浜工場では、負傷者搬送用に「イーバック+チェア(階段避難車)」を製造プラント(5階建て)に設置しました。「イーバック+チェア」は車椅子を押す様な形で階段をすべり降りることができ、負傷者搬送に威力を発揮します。災害発生時の人命救助に役立てたいと考えています。



「イーバック+チェア」

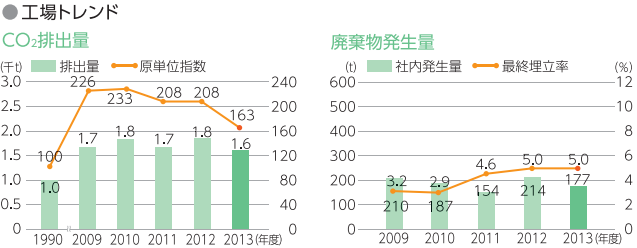
釧路工場



工場長：石井 賢二

所 在 地：北海道釧路市大楽毛南1丁目2番68号
設 立：1968年8月 敷地面積：8,673m²
従 業 員：11名、協力会社員1名
主要製品：製紙用薬品

2013年夏の貫流ボイラー(2トン×3基)の設備更新に伴い、燃料種をA重油から天然ガスに変更することでCO₂の大幅削減となっています。また主原料を固形から液体(タンク)に変更することで省力化とともに使用後の空フレコンや紙袋の廃棄がなくなりました。防災活動では、釧路工場を知ってもらうため消防署にて研修会をおこないました。釧路市消防本部も初の試みということで地方紙にも掲載されました。



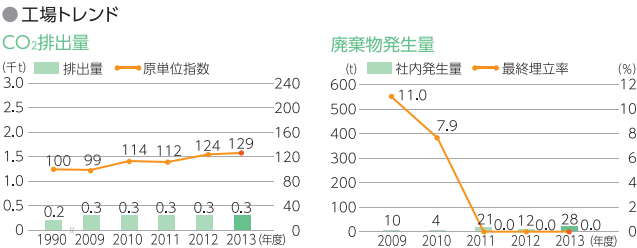
徳島工場



工場長：府内 聡生

所 在 地：徳島県阿南市那賀川町中島1577番地
設 立：1969年5月 敷地面積：5,159m²
従 業 員：6名
主要製品：製紙用薬品

当工場は2014年5月に設立45周年を迎えました。工場内には設立以来の古い設備が多く残っておりますが、この3年間で製造釜攪拌機、ボイラーなどの主要設備の更新により大きな省エネルギー化を実現することができました。また、2013年12月には無事、無災害記録3,650日を達成しました。これからも安全面を最優先し、地域の環境に配慮した操業を続けていきます。



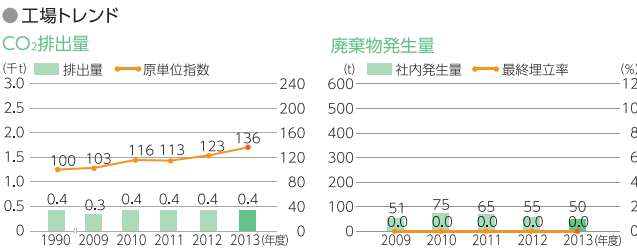
鶴崎工場



工場長：黒田 慎一

所 在 地：大分市大字家島宇東松浦1120番地3
設 立：1970年5月 敷地面積：4,839m²
従 業 員：6名
主要製品：製紙用薬品

毎日の安全操業の積み重ねで連続無災害は37年が経過しました。また、工場が臨海地域にあるため、地震や津波に対しては地域の工場や住民を交えて避難訓練を実施し、地域ぐるみで防災意識を高めています。冬の初めには工場の庭にあるサザンカ(大分市の花)の赤い花で満開になる自然豊かな土地で、環境への配慮もおこないながら地域に信頼される工場運営を継続していきます。



■ 第三者意見



NPO法人 大阪環境カウンセラー協会
副理事長
地球環境関西フォーラム
戦略部会・循環社会部会委員
大学講師等(近畿大学・大阪産業大学・鳥取環境大学等)
CEAR登録 環境主任審査員

吉村 孝史 氏

1876年に創業され、138年目を迎えた荒川化学工業(株)の2014年度環境・社会報告書からは、創業の原点を見つめなおし、これまでの取り組みを振り返りながら、今後の新たな時代を見据え、グローバルに事業を展開していく決意が読み取れます。経営理念実現の道標として、ARAKAWA WAY「5つのKIZUNA」が制定され、その価値観のトップに社会の軸(まもる)として、安全と並んで環境が取り上げられていることは高く評価できます。2013年の株主総会で環境・社会報告書が総会資料として扱われたことは、環境経営の実を示しています。環境保安基本方針から活動目標につながるそのベースになる経営理念の道標のトップに安全と環境があるといえます。報告書では、明治時代、ロジン(松やに)とともに歩み始めた創業の昔に立ち戻り、「荒川化学とロジン」を取り上げて、分かりやすく解説している所は、説得力があります。ロジンは、エジプトのミイラの時代から使われてきた万能素材です。再生可能な原料であり、まさに「環境材料」といえます。大切に扱って、世の中につないでいくことが大いに期待されています。超淡色ロジン、放熱塗料、フロン系洗浄剤の代替品など最新技術の紹介も力強いものがあります。

取り組みの中で、特筆すべきことを次に述べます。

第三者意見を受けて

吉村様には2010年から第三者意見の執筆をお願いしており、今回も貴重なご意見、ご指摘をいただき、ありがとうございました。

前回の第三者意見では、「環境・社会報告書がその存在感を高めてきているだけに、製品の環境配慮は常に重要に取り扱うことが肝要です」とのご指摘をいただいております。その貴重なご意見を受け、本年はつなぐ技術として、当社製品と環境貢献について特集を組ませていただきました。当社主要原料である再生可能なロジンを核として、当社製品の環境貢献について、一般の方にもわかりやすい紙面づくりを工夫しましたが、今回の第三者意見にてご評価いただけたことは、今後の大きな励みとなりました。

今回は、吉村様から、蓄エネルギーや再資源化に対する取り組みを充実させる必要があると、貴重なご指摘をいただいております。ご意見を得て振り返ってみると、当社でもゼロエミッションへの取り組みの中で、従来廃棄物として扱っていたものが、再資源化されている例が多いことに気づきました。これらは、社内では、積極的に解析していなかった切り口であり、再解析を含め、今後の取り組みの中に反映させていきたいと考えております。

2014年は国連のESD(持続可能な社会のための環境プログラム)の取り組み10年の最終年であり、世界レベルの会合が、今秋名古屋、岡山で開催されますが、その岡山で就実学園と里山再生事業に参加活動していることは、タイムリーな取り組みです。荒川化学がロジンで松と深い関わりをもっていることから、この赤松の植樹のボランティア活動は経営理念と結びついた好事例です。また、事例紹介の現場の声を伝える「VOICE」において、社外のステークホルダーの声を多く取り上げています。社内の声だけでは、自画自賛になる恐れがありますが、社外の声により、世間とつながっていることが実感できます。出前授業の大阪放出小学校長の話や電子部品用外装塗料で環境配慮製品を作ることができたこと、私がかつて在職していたパナソニック社の表彰の話など良い事例が紹介されています。

さて、報告書の内容について提案したいことがあります。持続可能な社会に向けた取り組みには、3つの側面があります。それは、まず、低炭素社会を目指す地球温暖化対策、ついで、循環型社会を目指す資源循環対策、そして、自然共生社会を目指す生物多様性対策です。その中で次の2つのことに触れます。

1つ目の地球温暖化対策には、省エネルギー、創エネルギー、蓄エネルギーの取り組みが求められます。省エネについては、ていねいに記されています。創エネは太陽光発電装置の設置と放熱塗料の件はありますが、さらなる充実が求められます。蓄エネは見当たりません。

2つ目の資源循環対策については、再資源化とゼロエミッションを長期方針とされています。最終埋立率は1%以下を達成し、評価できます。しかし、再資源化の内容が十分ではありません。取り組みを充実させる必要があります。

また今回、現場の声を伝える「VOICE」で、社外のステークホルダーの声を多く取上げ、さまざまなお話を聞かせていただきました。前記したつなぐ技術の特集に加え、「VOICE」を通し、読者の皆様が当社へのご理解をさらに深めていただけるのではと感じております。加えて、「VOICE」は、当社にとっては自身の振り返りにも役立っており、投稿いただいた方々に感謝しております。

本年、当社価値観を明文化し、ARAKAWA WAY「5つのKIZUNA」を制定しました。今後も、皆様からのご意見を尊重しつつ、価値観のトップにすえている「まもる」を実践していく所存です。グローバル展開の中で、安全を最優先し、ルールを遵守し、環境に配慮し、事業活動を進めてまいります。今後とも、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



荒川化学工業株式会社
常務取締役
品質担当
環境保安担当
開発統轄部長
眞鍋 好輝